

2020 年度 定時社員総会 資料

日 時 2020 年 7 月 17 日（金）13:00～14:00
場 所 オンラインでの開催

1. 会長挨拶
2. 定数確認
3. 議長選任

目的事項

報告事項

- (1) 令和元年度 活動報告概要
- (2) 令和元年度（公益社団法人第 9 期）事業報告の件
- (3) 令和 2 年度（公益社団法人第 10 期）事業計画書及び収支予算書等の件
- (4) 地球惑星科学者の行動規範および倫理規則の制定の件

決議事項

- (1) 第 1 号議案 令和元年度（公益社団法人第 9 期）決算承認の件
- (2) 第 2 号議案 日本地球惑星科学連合定款第 12 条改訂の件
- (3) 第 3 号議案 役員（理事、監事）選任の件

資料

1. 令和元年度事業報告..... P. 3～33
2. 令和 2 年度事業計画書..... P. 34～48
3. 令和 2 年度収支予算書..... P. 49
4. 地球惑星科学者の行動規範..... P. 50～51
倫理規則 P. 52～55
倫理委員会規則..... P. 56
5. 令和元年度決算報告書..... P. 57
 - (1) 貸借対照表..... P. 57
 - (2) 正味財産増減計算書..... P. 58～59
 - (3) 正味財産増減計算書内訳表..... P. 60～62
 - (4) 財産目録..... P. 63～64
 - (5) 財務諸表に対する注記および附属明細書..... P. 65～67
 - (6) 監査報告書..... P. 68～70
6. 日本地球惑星科学連合定款第 12 条改訂の件..... P. 71～72
7.
 - (1) 役員候補者推薦委員会名簿..... P. 73
 - (2) 理事候補者選挙実施日程..... P. 73
 - (3) 役員候補者推薦委員会議事録..... P. 74～76
 - (4) 理事候補者選挙 投票結果..... P. 77
 - (5) 役員候補者推薦一覧..... P. 78～79

令和元年度 事業報告

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階

電話：03-6914-2080

Fax：03-6914-2088

令和元年度 事業報告

公益社団法人第9期（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」）が定款に定める事業の概要は以下の6通りである。

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

- （1）日本地球惑星科学連合大会（連合大会）の開催 [定款第5条（1）]
- （2）公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催 [定款第5条（1）、（2）]
- （3）一般公開講演会の開催 [定款第5条（2）]
- （4）「スペシャルレクチャー」の開催 [定款第5条（2）]
- （5）地球惑星科学関連の研究教育機関・学協会・プロジェクト・民間企業の紹介および展示、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示・頒布 [定款第5条（7）]

2. 学会誌その他の刊行物の発行と情報発信

- （1）学術雑誌等の出版の高度化 [定款第5条（2）]
- （2）加盟学協会による学術誌等の出版推進 [定款第5条（2）]
- （3）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行 [定款第5条（2）]
- （4）ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業 [定款第5条（2）]

3. 国および社会一般からの諸要請に対する地球惑星科学コミュニティの意見集約とこれに基づく提言

- （1）学協会長会議の開催 [定款第5条（3）]
- （2）地球惑星科学コミュニティの意見集約 [定款第5条（3）（6）]

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

- （1）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力 [定款第5条（4）]
- （2）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援 [定款第5条（2）]

5. 地球惑星科学知見の社会還元

- （1）複合的自然災害への対応と科学的提言の発信 [定款第5条（5）]
- （2）複合的自然災害リテラシーの普及 [定款第5条（5）]

6. セクション・サイエンスボード、及び委員会等活動

- （1）セクション・サイエンスボード活動 [定款第5条（3）（6）]
- （2）顕彰制度 [定款第5条（1）（2）]
- （3）各種委員会活動 [定款第5条（1）～（7）]

以下に、個別の事業の状況について述べる。

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

地球惑星科学の一層の発展に寄与することを目的とし、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象に、公開で学術大会を開催し、学術講演、ポスター発表による関連分野の研究発表、情報交換の場を設けることを目的として、日本地球惑星科学連合大会（以下、「連合大会」という。）を開催した。連合大会の開催に関連して、講演募集、プログラム編成、ユニオン・パブリックセッションの設定、アウトリーチプログラムの企画等、に関わる事業を行った。

（１）日本地球惑星科学連合 2019 年大会の開催

会 期：2019 年 5 月 26 日(日)～30 日(木) 5 日間

会 場：幕張メッセ（国際会議場、国際展示場 8 ホール）、東京ベイ幕張ホール

大会委員長：寶 馨（京都大学）

主 催：日本地球惑星科学連合

後 援：46 団体

協 賛：日本高圧力学会、日本サンゴ礁学会、公益社団法人 日本天文学会、
公益社団法人 日本地震工学会、公益社団法人 土木学会、
公益社団法人 地盤工学会、公益社団法人 日本地すべり学会、公益社団法人砂防学会

□ 開催セッション数：240

セッションカテゴリー	開催数
U: ユニオン	8
O: パブリック	8
P: 宇宙惑星科学	25
A: 大気水圏科学	45
H: 地球人間圏科学	33
S: 固体地球科学	60
B: 地球生命科学	8
G: 教育アウトリーチ	3
M: 学際・広領域	50
計	240

参考：過去開催セッション数：2018 年 230、2017 年 253 件、2016 年 194 件、2015 年 189 件、2014 年 193 件、2013 年 180 件、うち、国際セッション数：2016 年 63 件、2015 年 55 件、2014 年 43 件、2013 年 42 件、2012 年 42 件

□ 講演投稿数

・発表論文数：5028 件（2018 年 5001 件、2017 年 5645 件、2016 年 4515 件、2015 年 4037 件、2014 年 3806 件、2013 年 3980 件）

口頭発表 2624 件

(2018 年 2691 件, 2017 年 286 件、2016 年 2435 件, 2015 年 2545 件, 2014 年 2428 件, 2013 年 2226 件)

ポスター 2404 件

(2018 年 2310 件, 2017 年 2778 件、2016 年 2080 件, 2015 年 1492 件, 2014 年 1378 件, 2013 年 1754 件)

□ 参加者数

参加者数 : 8390 名

(2018 年 7968 名, 2017 年 8450 名, 2016 年 7240 名, 2015 年 6689 名, 2014 年 7046 名)

・参加登録者数 : 6347 名

一般 3855, 小中高教員 35, 大学院生 1479, シニア 125, 学部生 823,

高校生以下 30

・同伴者数 : 43 名

・アウトリーチ参加者数 : 1304 名

パブリックセッション一般参加者 654

高校生セッション関係者 355

ジオパーク関係者 59

中学生アウトリーチ企画参加者 112

高校生アウトリーチ企画参加者 113

教員向アウトリーチ企画参加者 11

・出展関係者数 : 428 名

・ゲスト : 120 名

・プレス : 76 名

・ボランティア : 60 名

・スタッフ : 12 名

(2) 公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催

連合大会において、高校生を対象とした公開プログラム「高校生によるポスター発表」を開催し、高校生の研究成果発表に対して研究者や一般の参加者が聴講し意見交換を行い、また優秀発表を表彰した。

開催日 : 2019 年 5 月 26 日 (日)

場 所 : 幕張メッセ国際会議場

主 催 : 公益社団法人日本地球惑星科学連合 広報普及委員会

実施責任者 広報普及委員会副委員長 原 辰彦 (国立研究開発法人建築研究所)

発表数 : 80 件

参加 41 高校, 1 科学館 (発表順)

池田学園池田高等学校、長野県松本深志高等学校地学会、福島県立磐城高等学校、長野県屋代高等学校、岡山県立津山高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学

校、栄東高等学校、東京都立多摩科学技術高等学校、宮城県利府高等学校、宮城県古川黎明中学校・高等学校、熊本県立天草高等学校、兵庫県立加古川東高等学校、海城中学高等学校、札幌日本大学高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、群馬県立太田女子高等学校、高知県立室戸高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、埼玉県立浦和高等学校、静岡県立韮山高等学校、逗子開成高等学校、埼玉県立熊谷高等学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、中央大学附属中学校・高等学校、本郷高等学校、岐阜県立岐山高等学校、静岡県立磐田南高等学校、茨城県立日立第一高等学校、東筑紫学園高等学校、滋賀県立石山高等学校、長野県飯山高等学校、大阪府立大手前高等学校定時制の課程、山梨県立日川高等学校、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ・シニア、福井県立藤島高等学校、武蔵高等学校中学校、東京学芸大学附属高等学校、愛知県立一宮高校、香川県立三本松高等学校、高知県立高知小津高等学校、広尾学園高等学校

最優秀賞（1件）

長野県松本深志高等学校『北アルプス周辺での雲の観測と地表風の解析により明らかになった山岳域での夕立への海風や谷風的重要性』

優秀賞（4件）

長野県屋代高等学校『墓石地震学による考察』

宮城県古川黎明中学校・高等学校『回折格子を用いた流星の分光観測』

札幌日本大学高等学校『ネオジム磁石を用いた地磁気水平分力の測定』

武蔵高等学校中学校『伊豆大島野増層における火山砕屑物の堆積環境と噴火口の位置の推定』

奨励賞（8件）

池田学園池田中学・高等学校『「弘前藩庁日記」からみた江戸時代の青森の飢饉の要因』

横浜サイエンスフロンティア高等学校『南海トラフ沈み込み帯遷移領域における地震モーメント解放率の時間変化と 2011 年東北地方太平洋沖地震の関係』

兵庫県立加古川東高等学校『ため池における管理負担を低減した低水位管理方法の提案』

京都府立嵯峨野高等学校『校有林におけるブランド商品の開発に向けて～高品質なヒノキの選定と適切な乾燥方法の検討～』

静岡県立韮山高等学校『ドローンによる高精度 3D モデルを用いた柱状節理形態の統計的分析とその成因に関する研究』

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎『クレーターを数えてみえてきた土星衛星ディオネの歴史 新考察』

東筑紫学園高等学校『平尾台 広谷湿原土壌硬度と水の起源を探る＋ラムサール条約』

長野県飯山高等学校『ISS の色変化から探る大気の性質』

（3）一般市民向け公開講演会の開催

社会に対する地球惑星科学関連の研究成果の広報・普及活動を通して、地球惑星科学の発展に資するとともに、安全・安心な社会の構築に寄与することを目的に、一般市民向け講演会を

開催した。5月の連合大会においてパブリックセッションを開催するとともに、12月には「高校生のための冬休み講座 2019」を開催した。

連合大会パブリックセッション

開催日：2019年5月26日（日）連合大会開催期間中

場 所：幕張メッセ国際会議場

1. 「ブラタモリの探究 ―「つたわる科学」のつくりかた」
2. 「地球・惑星科学トップセミナー」
3. 「高校生によるポスター発表」
4. 「社会と連合との相互交流によって創る新しい地球惑星科学教育」
5. 「日本人がやりがちなおかしい英語」
6. 「激甚化する風水害にどう対応するか」
7. 「キッチン地球科学：手を動かす実験で頭脳を刺激しよう！」
8. 「ジオパークで地球活動をイメージする ―ジオ多様性の大切さを知ろう―」

NASA/JAXA ハイパーウォール講演会

開催日：5月26日（日）、27日（月）、29日（水）

場 所：幕張メッセ国際展示場

講 師：Lori Glaze, Brian Day, Emily Law, 飯田佑輔, 吉川真, 臼井寛裕, 村上 豪ほか

日本地球惑星科学連合高校生のための冬休み講座 2019

開催日：12月27日（金）13:00-16:00

場 所：東京大学本郷キャンパス 理学部1号館2F 小柴ホール

講師：橘 省吾（東京大学/JAXA）「リュウグウの石に聞いてみたいこと」

鈴木庸平（東京大学）「岩の中で生きる微生物は始原的？それとも究極の進化形？」

（4）地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示、地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設けた。これらの紹介・展示に関わる募集活動、展示準備作業等を行った。

また毎年、多数の地球惑星科学に関連する書籍、資料が公刊されているが、それらに対するアクセスは必ずしも容易ではないことから、連合大会の折に、これらを多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々に利用促進を図った。これらの活動に必要な手配や現場での作業を行った。

一般展示：69ブース（2018年70、2017年74、2016年68）

大学パネル：12ブース（2018年12、2017年11、2016年10）

書籍・関連商品：25ブース（2018年26、2017年30、2016年26）

パンフレットスタンド：1 ブース（2018 年 8, 2017 年 9, 2016 年 5）
学協会デスク：14 ブース（2018 年 13, 2017 年 13, 2016 年 11）
Special Exhibition 7 ブース
特別カウンター展示 5 ブース

2. 学会誌その他の刊行物の発行と情報発信

（1）学術雑誌等の出版の高度化

2014 年 4 月に初版が発刊された連合のオープン・アクセス（OA）電子ジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science（PEPS）」の編集・出版事業を通じて国際情報発信力強化に取り組んだ。

ジャーナルの影響度を測る代表的な評価指標である Clarivate Analytics(旧 Thomson Reuter) のインパクトファクター（IF）、及び Elsevier/SCOPUS の CiteScore を昨年取得し、2 年目の今年は、それぞれ前年度を上回り、地球惑星科学分野の一流ジャーナル誌の値にさらに近づいた。これを受け、メール配信サービスや国際学会での広報、連合会員向けのメールなどを通じて IF 値の上昇と投稿依頼をアピールした。

また、ジャーナルの認知度をさらに高めるために、連合大会、EGU、AOGS、AGU 等の国際会議に連合と共同のブース出展、連合参加学会が主催する会議に紹介を依頼するなどして、広報活動に努めた。さらに、ジャーナルの活性化を図るための表彰制度により、Download 数の多い論文を表彰する Most Downloaded Paper 賞、被引用数の多い論文を表彰する Most Cited Paper 賞を設けて表彰し、PEPS から推薦した出版論文が地震学会の優秀論文賞を受賞した。また、ホームページを充実し、日本語 Abstract や SNS を活用して出版論文を紹介し、著者宛メール配信なども実施して引用促進にも取り組んだ。この結果、出版開始から 5 年半で 310 本強の論文を出版し、連合会員以外の著者からの論文投稿も 4 割を超え、約 6 割の出版論文が第一著者および共著者に外国人を含み、国際誌として順調に成長しつつある。

また、PEPS への論文投稿と引用を促進するための施策として、一般投稿も受け付ける開放型特集号 SPEPS（SPecial call for Excellent Papers on hot topicS）の推進、優れた中堅研究者を表彰する西田賞受賞者への Review 論文投稿依頼を行った。

（2）出版事業の経営強化

PEPS では、1 月に APC の値上げを実施し、将来的に連合の負担なしに出版事業を遂行できる体制基盤を整えるための準備に着手した。

また、質の高い論文を出版し、ジャーナルの品質を高め、ひいては多くの非連合会員からの論文投稿を得るために、科研費補助金を活用した招待論文や Review 論文の APC（論文掲載料）や英文校閲の費用の補助を行った。

（3）加盟学協会による学術誌等の出版推進

年会でのおけるジャーナルに関するセッションの開催、連合ロゴを掲載する連合加盟学協会の国際誌を中心に、連合のホームページ上での紹介、また国内や海外における国際学術大会でも連合の出展ブースにおいてそれらの雑誌を紹介するなど、地球惑星科学及び関連科学の学術出版物

の広報普及活動を行った。

また、関係他誌と連携方針について合意し、新たに科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を獲得し、共同で広報活動などを行った。

（４）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

研究の推進から得られた科学的成果を広く地球惑星科学コミュニティ及び社会一般に広報し、普及させることを目的とするニュースレター誌「JGL」を昨年同様に年間４号定期発行した。ニュースレター誌「JGL」の発行日、部数は以下のとおりである。

発行日	No.	発行部数
2019 年 5 月 1 日	Vol. 15 No. 2	1,200 部
2019 年 8 月 1 日	Vol. 15 No. 3	3,300 部
2019 年 11 月 1 日	Vol. 15 No. 4	3,300 部
2019 年 2 月 1 日	Vol. 16 No. 1	3,300 部

（５）ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合ウェブサイトや毎月定期配信を行う連合メールニュース等を通して、地球惑星科学に関連する各種ニュースとともに、国内外の学会、シンポジウム、研究集会、公開イベントの情報や、求人・公募情報等の情報提供を行った。今期は、基幹となるウェブシステムをリニューアルし、定期的に連合メールニュースを配信した。

発行日	No.	種別
2019 年 4 月 11 日	No. 322	4 月号
2019 年 5 月 10 日	No. 323	5 月号
2019 年 6 月 10 日	No. 324	6 月号
2019 年 7 月 10 日	No. 325	7 月号
2019 年 8 月 1 日	No. 326	臨時号
2019 年 8 月 9 日	No. 327	8 月号
2019 年 9 月 10 日	No. 328	9 月号
2019 年 10 月 11 日	No. 329	10 月号
2019 年 11 月 11 日	No. 330	11 月号
2019 年 12 月 10 日	No. 331	12 月号
2020 年 1 月 10 日	No. 332	1 月号
2020 年 2 月 10 日	No. 333	2 月号
2020 年 3 月 10 日	No. 334	3 月号

３．国および社会一般からの諸要請に対する地球惑星科学コミュニティの意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティの意見を集約するとともに、日本学術会議を含む国及び社会一般からの諸要請への対応に関わる要請に対応するために、以下の活動を行った。

(1) 学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に2回開催して、地球惑星科学コミュニティの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行った。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行った。

第20回学協会長会議

期日：2019年5月28日(火) (連合大会会期中)

場所：幕張メッセ国際会議場 101号室

第21回学協会長会議

期日：2019年10月15日(火)

場所：東京大学地震研究所1号館会議室

(2) 地球惑星科学コミュニティの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティの意見集約と、コミュニティへの情報伝達を行った。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティへ周知した。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催した。

全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

日 時： 2019年5月27日(月) (連合大会会期中)

場 所： 幕張メッセ 国際会議場 101号室

主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会、日本地球惑星科学連合

内 容：全国の地球惑星科学系専攻長・学科長が一同に会し、地球惑星科学系大学の発展と大学院教育の在り方についての情報交換。

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

(1) 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

我が国の地球惑星科学コミュニティを代表して、地球惑星科学に関する国際的な研究協力、交流の推進を図るために、ヨーロッパのEGU、米国のAGU、アジアのAOGS等の国際的な学協会と連携協力しながら、地球惑星科学の発展に資する活動を行い、地球惑星科学に関わる国際会議などの企画、開催、国際的プロジェクトの支援等を行うための準備を進めた。AGU、EGU、AOGSとは、それぞれが主催する学術大会において共通のセッションを設けた。また、海外で開催される関連学会において、ブースを設置し、日本国内で得られた成果に関する広報、資料頒布等の展示を実施した。

開催日	出展大会名	開催場所
2019 年 4 月 7 日～4 月 12 日	EGU General Assembly 2019	ウィーン（オーストリア）
2019 年 7 月 28 日～8 月 2 日	AOGS 16th Annual Meeting	シンガポール
2019 年 12 月 9 日～13 日	AGU 2019 Fall Meeting	サンフランシスコ（アメリカ合衆国）

（２）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

国際地学/地理オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れる機会を提供することを目的に、以下の国際科学オリンピック事業に関連する支援と活動を進めた。

１）国際地学オリンピック活動支援

- ・ 8 月 26 日から 9 月 3 日まで韓国・大邱で第 13 回国際地学オリンピック・韓国大会が 43 か国・地域から 163 名の選手が参加して開催された。日本は選手 4 名全員が金メダルを獲得した。科学オリンピック全体で日本チームの全員が金メダルを獲得したのは初めてであった。
- ・ 12 月 15 日に全国の会場で、第 12 回日本地学オリンピック予選（兼第 14 回国際地学オリンピック・ロシア大会一次選抜）を行った。
- ・ 3 月 15 日から 3 月 17 日までつくば市で開催された第 12 回日本地学オリンピック本選にて、「日本地球惑星科学連合賞」として、本選で最優秀成績を獲得した女性に賞状ならびに記念品の授与を行い、参加高校生の意欲向上を図り、本活動への支援を強化した。

２）国際地理オリンピック活動支援

- ・ 7 月 31 日から 8 月 5 日まで中国・香港で開催された第 16 回世界大会に、日本代表選手 4 名を派遣した。大会には 44 か国・地域から合計 166 名の高校生が参加した。日本は、1 名が銅メダルを獲得した。国・地域別の総合順位は 27 位であった。
- ・ 12 月 14 日に全国の会場で第 14 回科学地理オリンピック日本選手権大会及び第 17 回国際地理オリンピック世界大会（トルコ・イスタンブール）の第 1 次選抜試験（マルチメディアテスト）を行った。
- ・ 2 月 16 日に第 2 次選抜試験（記述式テスト）を、3 月 14 日・15 日に第 3 次選抜試験（フィールドワークテスト）を実施した。
- ・ 3 月 26 日に開催された日本地理学会総会（駒澤大学駒沢キャンパス）において、世界大会派遣選手 4 人の表彰を行った。

５．地球惑星科学知見の社会還元

防災学術連携体と共同して防災推進国民大会などで科学的提言を発信し、地球惑星科学が災害の理解と被害の軽減に貢献する道を示した。

６．セクション・サイエンスボード、及び委員会等活動

(1) サイエンスボード活動

多様な分野を含む地球惑星科学を一定の基準により区分した、各々の分野の更なる発展をめざすサイエンスボードを組織して、個々のサイエンスを長期的な視点から、強力に支援する活動を推進した。

宇宙惑星科学セッション

- ・ 連合大会では宇宙惑星科学関連 25 セッションを開催し、その内、14 セッションを EE セッション（発表、資料ともに英語）セッションとして開催した。学生優秀発表賞の表彰を行った。114 件（当日キャンセルを含む）の審査対象から最終的に 11 件を選出した。審査の過程では、多くの宇宙惑星科学セッション登録会員に審査員として協力していただいた。
- ・ 2019 年 5 月 31 日-6 月 3 日に北海道・ニセコにて、International Venus Conference 2019 を連合と共催の形で開催した。16 カ国から 113 人、116 件（口頭 57 件、ポスター 59 件）の発表があった。
- ・ 2020 年 3 月にサイエンスボードミーティングを開催した。今回はセッションボードメンバー以外の若手の参加を重視した。より多くの参加者の見込める東京を会場とし、例年の、セッションボード活動の方向性やアクションに加え、連合およびセッションの将来像について意見交換を図った。
- ・ セクションホームページのフレームを製作し、掲載情報の収集を行った（公開に向け調整中）。

大気水圏科学セッション

- ・ セクションボードメンバー および 代議員が参加するセッションボードミーティングを開催した。また、学生優秀発表の審査、高校生セッションの審査、一般・報道向けのハイライト論文の審査を行った。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2020 に向けてセッション提案の呼びかけを行い、またプログラム案の作成を行った。
- ・ 日本学術会議地球惑星科学委員会からの要請に基づき、夢ロードマップの改訂を行った。
- ・ 水文分野 5 学会合同のレター誌「Hydrological Research Letters」の出版に関わる協議会に参加し、費用の一部を負担した（東京、2020 年 1 月 20 日）。
- ・ 研究集会「SOLAS (Surface Ocean-Lower Atmosphere Study) Open Science Conference」を協賛し費用の一部を負担した（札幌市、2019 年 4 月 21 日～4 月 25 日）。
- ・ 国際会議「2019 SCOR (Scientific Committee on Oceanic Research) Annual Meeting」を協賛し費用の一部を負担した（富山市、2019 年 9 月 23 日～9 月 25 日）。
- ・ 公開シンポジウム「国連の持続可能な海洋科学の 10 年 - One Ocean の行動に向けて」を後援した（東京、2019 年 11 月 6 日）。
- ・ 今後の宇宙開発体制のあり方に関する「タスクフォース会合・リモートセンシング分科会 (TF)」コミュニティの地球科学研究高度化ワーキンググループの活動に参加した。
- ・ セクションを説明するウェブページを運営した。

地球人間圏科学セクション

- ・ 連合大会においてセクションボードミーティングを開催し学生優秀発表賞の選考に関わる議論を行い、表彰活動を行った。
- ・ 連合大会にインドネシアの研究者を招へいし、研究交流を進めた。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2020 開催に向けセッション提案を呼びかけた。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2020 プログラム委員として、七山太・小荒井衛両氏を選出した。
- ・ 地球人間圏科学セクションのボードメンバーのミーティングを 2019 年 12 月末に開催し、翌年度の活動方針を話し合う機会を設けた。
- ・ 地球人間圏科学セクションに関わる若手研究者の学会活動を支援した。
- ・ 日本学術会議地球惑星科学委員会活動との連携(シンポジウム、夢ロードマップ改訂、大型研究計画の検討など)を図った。
- ・ ジオ・ユニオン活動 (IGU 大会、ICA 大会、INQUA 大会、IAG 大会など) との連携を進めた。

固体地球科学セクション

- ・ 連合大会において、セクションボードメンバーを招集し、セクションボード会合を開催した (2019 年 5 月 29 日)。会合では、夢ロードマップの進捗状況報告と検討、フォーカスグループの活動報告、セクションボード予算承認、再来年度に固体地球科学セクションが担当するプログラム委員長決定の報告などを行った。論文不正問題を議論し、会長声明の発出を要望することとした。また、ハイライト論文についての意見交換を行った。
- ・ 連合大会において、固体地球科学セクション (領域外・複数領域の担当も含み、全 60 セッション) では、20 件の英語セッションを開催した。
- ・ 連合大会に先立ち、ハイライト論文を選考した。
- ・ 連合大会において、学生発表賞、高校生ポスター賞を選考した。
- ・ 2019 年 7 月 30 日に連合事務局で執行部会議を行い、JpGU-AGU Joint Meeting 2020 におけるセッション選出のプログラム委員を選考し、3 名のプログラム委員が留任、2 名を新規に追加した。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2020 に向けて、固体地球科学関連学協会に E(英語)セッションの提案を依頼した。その結果、固体地球 (S) セッション 71 のうち、E セッションが 49 (69%)、J(日本語)がセッション 22 (31%)と E セッション数の目標値を達成することができた。
- ・ 地球内部科学フォーカスグループ (SEDI FG) では、今後の活動方針、次期体制について検討を行った。
- ・ ハードロック掘削科学フォーカスグループ (掘削 FG) では、関連セッションに外国人研究者 2 名を招聘した。また、FG 若手奨励賞を創設し、3 名を選考し、受賞者に国内旅費を支援した。掘削 FG のホームページを開設した。
- ・ 表層変動熱年代学フォーカスグループ (熱年代 FG) のホームページを開設した。

地球生命科学セクション

- ・ 連合大会において地球生命科学関連セッション (国際セッション含む) を開催した。
- ・ EGU で EGU, AGU, 連合ジョイントのユニオンセッションを推進する計画を進めた。

- ・ EGU の Biogeoscience Editor は、現在 4 名が就任。
- ・ 高校生発表賞・学生優秀発表賞の Web システムの充実を図った。
- ・ 連合大会期間中にサイエンスボードのビジネスミーティングを行った。
- ・ 2019 年 2 名の連合フェロー受賞者および 1 名の西田賞受賞者について、顕彰委員から報告があった。
- ・ 連合大会の地球生命科学関連セッションで学生優秀発表賞の審査を行い、以下の 4 件の受賞者を選抜した。
- ・ 連合大会期間中に地球生命セッションからプレスリリース候補の発表選抜を行った(広報)。
- ・ 地球生命科学セクションの若手メンバーの国際会議 (EGU, AGU, Goldschmidt など) への参加助成を行った。連合とのジョイントセッションに申し込む人を最優先とし、ポスター発表より口頭発表を優先させた。
- ・ 優れた地球生命科学関連の論文の PEPS への投稿を呼びかけた。
- ・ 連合大会で研究分野を越えて学生・若手研究者におくる地球惑星科学の特別講義シリーズ『スペシャルレクチャー』を行った。
- ・ 地球生命科学セクションに登録している代議員は、選出区分によらず、全員を自動的にボードメンバーとしている。2019 年度のボードメンバーについて役割分担を決定した。
- ・ 2 名の若手研究者に EGU 派遣旅費の公募事業を行った PEPS 誌への投稿が条件になり、謝辞・グラントに以下を記載してもらうことにした。
- ・ 2020 年度日本地球惑星科学連合セクション代議員選挙を行い、13 名を選出した。
- ・ 2020 年度日本地球惑星科学連合セクションプレジデント選挙を行った。
- ・ 連合主催の「高校生のための冬休み講座 2019」を東京大学・小柴ホールで行い、地球生命科学セクションから講師を派遣した。

(2) 顕彰制度関連活動

1) 連合大会における「学生優秀発表」の表彰

連合大会における学生優秀発表賞の表彰をセクション単位で実施した。

2) 連合フェローの顕彰

2019 年度フェロー 9 名の顕彰を行った。また 2020 年度フェロー候補者の募集と審査を行った。

3) 地球惑星科学振興西田賞受賞者の表彰

第 3 回地球惑星科学振興西田賞受賞者の表彰を 2019 年連合大会において行った。

4) 日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）の審査

第 47 回日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）受賞候補者の募集と審査を行った。

5) 連合大会参加のための学生旅費助成の審査を行った。

(3) 各種委員会活動

理事会の取り決めにより委員会を組織して、各種事業を進めた。

総務委員会

- ・ 総会資料と理事会開催資料を事務局との協働により作成した。

- ・共催、協賛、後援等の外部折衝と理事会への照会を行った。
- ・事務局の運営に関して監修し、助言を行った。

財務委員会

- ・2019 年度連合大会を財務面から支援した。
- ・2019 年 12 月 3 日（火）10:00～15:00 に各科学セクション、各委員会からの予算要求書に基づきヒヤリングを行うことで、予算の調整を行った。
- ・2019 年 12 月 3 日（火）15:00～16:00 に日本地球惑星科学連合事務局にて第一回 財務委員会を開催した。
- ・平成 31 年度決算書、令和 2 年度予算書を策定した。

広報普及委員会

- ・連合 2019 年大会のハイライト講演をセレクトしてプレスリリースを行った。
- ・連合 2019 年大会の日本語プログラムを編集し JGL 春号として発行した。
- ・連合 2019 年大会における記者会見用ブースを設置した。
- ・連合 2019 年大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」および「地球・惑星科学トップセミナー」を主催した。
- ・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信を行った。
- ・中高生のための「NASA-JAXA ハイパーウォール講演会」を行った。
- ・広報普及委員会パブリックセクション小委員会で、JpGU-AGU Joint Meeting 2020 で開催するパブリックセクションの採択に向けた検討を行った。
- ・2019 年 12 月 27 日（金）東京大学本郷キャンパス理学部 1 号館にて「日本地球惑星科学連合 高校生のための冬休み講座 2019」を開催した。映像を記録して動画配信を行った。
- ・ニュースレター誌 JGL を年間 4 号発行し、正会員を中心に、高等学校、博物館等に配布のほか、PDF 版を連合 Web で公開した。
- ・ニュースレター誌 JGL の特集ページとして 2019 年度フェロー受賞者の記念文集を掲載し、PDF 版を連合 Web で公開した。
- ・メールニュース定期号を年間 12 件、臨時号を年間 1 件発信した。
- ・連合 Web で様々なお知らせやニュース等の情報発信を行った。
- ・その他、連合の活動および地球惑星科学分野での最新トピックスや日本学術会議の活動をコミュニティ内外に迅速に伝えるための活動を行った。

環境災害対応委員会

- ・連合大会において、ユニオンセッション「連合の環境・災害への対応ー予期せぬ地質災害の衝撃に備えるー」（防災学術連携体との合同企画）、パブリックセッション「激甚化する風水害にどう対応するか」を開催した。
- ・連合大会期間中 2019 年 5 月 29 日に委員会を開催した。
- ・2019 年 6 月 13 日 日本建築学会にて開催の防災学術連携体総会に参加した。
- ・2019 年 10 月 2 日 首都大学東京秋葉原サテライトオフィスにて委員会を開催した。
- ・2019 年 10 月 19 日-10 月 20 日に名古屋市にて開催された第 4 回防災推進国民大会（ぼうさ

いこくたい 2019) にてポスター発表を行った。

- ・ 2020 年 3 月 日本学術会議シンポジウム／第 9 回防災学術連携シンポジウムが日本学術会議講堂で開催された。

ダイバーシティ推進委員会

- ・ 2019 連合大会の初日 (5 月 26 日 (日)) に、ダイバーシティ推進委員会の face to face 会議を開催し、主に役割分担の再確認を行った。
- ・ 同日、パブリックセッションを主催し「日本人がやりがちなおかしい英語」に関する話題を取り上げた。高校生や一般の方を含む多数の参加者があり盛況を博した。
- ・ 同日、英語でのユニオンセッション「Advancing workplace: progress, challenges and strategies for improvement (地球惑星科学分野のダイバーシティ推進状況：国際的な視点から)」(AGU および EGU と共催) を開催した。各コミュニティにおけるダイバーシティ推進の現状や取り組みについて情報の共有や、国際的な視点での比較など様々な議論がなされた。
- ・ 連合大会の全期間中、キャリアパス支援ブースの運営を行った。新聞社、出版社、科学館関係者などを含む数人がブースの相談員として担当した。
- ・ 連合大会の全期間中、会場施設内に保育室を開設した。JpGU-AGU Joint Meeting 2020 での必要性を考慮し、英語で保護者とコミュニケーションの取れる保育士を手配でき、かつ会場施設内に出張託児できる業者を選定し委託した。会員へは、保育ルームの紹介を行うとともに、利用者には利用料金の一部補助を実施した。
- ・ 外務省主催の国際女性会議 WAW! (5th WAW!) シャイン・ウィークス公式サイドイベントに、JpGU-AGU Joint Meeting 2020 のユニオンセッションの内容を申請し、登録された (URL: https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/hr_ha/page22_003124.html)。
- ・ 女子中高生夏の学校 (8 月 9 日(金) - 8 月 11 日(日)) に参加し、実験実習 (テーマ: 私たちが暮らす平地はこうしてできる! (地形形成の模型実験))、ポスター展示、進路相談などの企画を協賛した。
- ・ 男女共同参画学協会連絡会に出席するとともに若手研究者育成 WG 活動を行った (通年)。10 月 13 日 (土) に開催が予定されていて台風のため中止となった同連絡会主催のシンポジウムには、資料集にて本委員会活動の報告し、特設ウェブサイト上でのポスター発表を行った。
- ・ 人材マッチングのウェブの整備に関する検討を行った。

教育検討委員会

学校教育および社会教育に関わる諸活動

- ・ 5 月 26 日に連合大会パブリックセッション「社会と JpGU との相互交流によって創る新しい地球惑星科学教育」を開催した。
- ・ 11 月 23 日・24 日に東京大学教育学部で全国高校地学教育関係者情報交換会を開催した。
- ・ 8 月 24 日・25 日に東京大学地震研究所で開催された 2019 年度地学教育研究集会「減災・防災の徹底に向けた地学教育の展望と課題ー北海道胆振東部地震など現場からの直接フィードバックー」に協力した。

- ・12月8日に東京大学本郷キャンパスで開催された理数系学会教育問題連絡会 2019 年度シンポジウム「疑似科学やデマに正しく向き合うためにー科学教育で何をどう伝えるかー」に協力した。
- ・6月3日および9月18日に開催された学術会議 地球惑星科学委員会 地球惑星科学人材育成分科会 地学・地理学初等中等教育検討小委員会へ委員を派遣した。
- ・5月18日、6月30日、11月24日に第78回、79回、第80回教育課程小委員会を開催した。
- ・5月26日に教員養成等検討ワーキンググループを設置した。

国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

- ・国際地学/地理オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れる機会を提供することを目的に、以下の国際科学オリンピック事業に関連する支援と活動を進めた（**4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進**、（2）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援を参照）

教員免許状更新講習の開催

文部科学省より教員免許状更新講習の認定を受け、教員免許更新講習を実施した。

講習概要

開催月日	開催地	講習名	受講者数	定員
8月5日	東京都文京区	海と私たちの生活	11名	30人
8月23日	東京都文京区	数値シミュレーションで学ぶ津波の基礎	2名	15人

アースサイエンスウィーク・ジャパン

AGI (American Geoscience Institute) が、毎年、世界各国で開催している Earth Science Week と連携して、昨年に引き続いて「第2回アースサイエンスウィーク・ジャパン in 静岡」を2019年10月13日～20日に静岡県で開催した。講演会（19日、ふじのくに自然環境史ミュージアム）、巡検（20日、伊豆ジオパーク）などを実施した。

情報システム委員会

- ・連合として学術情報のマネジメントが、今後のオープンサイエンス、研究データのマネジメントや成果発信においてますます重要なことを鑑み、研究者の成果管理において今後国際的に重要とされる国際団体「ORCID」の加盟を継続した。また民間企業であるが ORCID の国際組織に認定されたサービスである「ORCID to Society」へ向けた会員への説明を進めるとともに、関連するデジタル識別子事業についての調査なども行った。
- ・連合大会における国際セッション “Open Science in Action: Research Data Sharing, Infrastructure, Transparency, and International Cooperation “を企画・共催し、米国 AGU 本部のオープンサイエンス推進担当の役員や AGU 上級副会長などとともに 28 件の投稿を頂き、重要な国内外の情報交換を行った。
- ・ユニオンセッション “JpGU-AGU-EGU Great Debate: Impact of research assessment and going forward “に参加し、国際的な研究評価の有り方、デジタル識別子や研究データのオ

ーブン化、FAIR データ原則 (Findable, Accessible, Interoperable, and Reusable) に基づくデータ共有などに関する欧米動向や我が国の対応等について議論を行った。

- ・ AGU Fall Meeting 2019 (米国サンフランシスコ) に参加し、AGU 地球宇宙科学情報学セッションの執行委員会に出席し、情報交換を行った。また AGU ユニオンセッション “U13B – Emotional Well-being and Career Stress in Earth Science: Support to Meet the Needs of the Next Centennial ” のパネルセッションへ参加し、米国・欧州からの代表とパネルディスカッションを行った。
- ・ 連合大会については改修されたオンラインシステムを活用して、円滑な大会運営を支援した。

ジャーナル企画経営委員会

- ・ 2019 年 4 月 2 日：メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、科研費の採択について報告した。
- ・ 2019 年 12 月 1 日：ジャーナル企画経営委員会のタスクフォースとして地震学会論文賞への PEPS 推薦論文選考委員 6 名を任命し、12 月 25 日選考会議を開催した。

ジャーナル編集委員会

- ・ 2019 年 4 月 22 日：TV 会議にて編集長会議を開催、Award 受賞論文の検討、ねつ造・改造論文が発覚した際の他誌の対応について確認した。
- ・ 2019 年 5 月 27 日：連合大会中に全体委員会を開催し、ジャーナルの現状報告、問題点についての意見交換を行った。
- ・ 2019 年 7 月 05 日：北大東京オフィスにて編集長会議を開催、5/27 で問題となった査読期間短縮のための査読システムの基本日限の見直し等を検討した。
- ・ 2019 年 10 月 04 日：TV 会議にて編集長会議を開催、プレプリントサーバー掲載論文の取り扱いに関して議論し、投稿システムの修正を決定した。また、被引用の無い論文への対応についても検討した。
- ・ 2019 年 12 月 23 日：北大東京オフィスにて編集長会議を開催、PEPS 出版論文に研究不正があった場合の対応策について文部省案を基に検討し、方向性に沿って今後さらに詳細案を検討することにした。また、新しい編集長の体制について意見交換した。

大会運営委員会

- ・ 日本地球惑星科学連合 2019 年大会 (5 月 26 日 (日) ～30 日 (木)) の開催とその準備を行った。
- ・ 大会運営委員会では、2018 年大会の総括に基づき、大会の変更点を検討し、大会運営委員の役割分担を決定した。

グローバル戦略委員会

- ・ 連合大会にて AGU とのジョイントセッションの活性化を推進した。
- ・ 同大会で大会運営委員会と協力して International Mixer Luncheon を開催し、海外からの参加者との交流を図ると同時に、大会に関するアンケートも実施した。

- ・連携海外組織とミーティングを開催し、連携強化を図った。
- ・EGU・AOGS・AGU など、連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介を行った。
- ・2019 年 5 月 28 日（火）および 2020 年 1 月 14 日（火）にグローバル戦略委員会を開催した。
- ・2020 年 5 月開催の JpGU-AGU Joint Meeting 2020 に向けて、セッション英語化推進するため、関連学協会に対して例年日本語で行われるセッションの見直しを依頼した。その結果、70 程度の英語セッションとなった。
- ・アジア戦略として、Chinese Geoscience Union (CGU) との連携を強化した。学術協定 (MOU) 締結に向けて、5 月 17 日 台北で開催された Taiwan Geoscience Union 大会にて Letter of Intent を取り交わし、JpGU-AGU Joint Meeting 2020 までに MOU を交わす方針で合意した。

□ フェロー審査委員会

- ・2019 年 12 月 31 日（月）を締切として、2020 年度日本地球惑星科学連合フェロー候補者の募集を行った。
- ・2020 年 2 月 8 日（土）に学会センタービルにて委員会を開催し、フェロー候補者の審査を行った。

□ 地球惑星科学振興西田賞審査委員会

- ・2018 年に審査した第 3 回地球惑星科学振興西田賞受賞者の表彰 2019 年連合大会においてを行った。

□ 日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会

- ・2020 年 1 月 15 日（水）を締切として、第 47 回日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）受賞候補者の募集を行った。
- ・2020 年 1 月 23 日（木）に学会センタービルにて委員会を開催し、第 47 回三宅賞の審査を行った。

Ⅱ. 処務の状況

1. 役員等に関する事項

(1) 公益社団法人第9期会長、理事、監事

役 職	氏 名	所 属
会 長	川幡 穂高	東京大学
副 会 長	田近 英一	東京大学
〃	古村 孝志	東京大学
〃	ウォリス サイモン	東京大学
理 事	阿部 なつ江	海洋研究開発機構
〃	市川 洋	所属無し
〃	井出 哲	東京大学
〃	小口 千明	埼玉大学
〃	河宮 未知生	海洋研究開発機構
〃	木村 学	東京海洋大学
〃	倉本 圭	北海道大学
〃	中村 昭子	神戸大学
〃	成瀬 元	京都大学
〃	西 弘嗣	東北大学
〃	浜野 洋三	神戸大学
〃	日比谷 紀之	東京大学
〃	松本 淳	首都大学東京
〃	道林 克禎	名古屋大学
〃	村山 泰啓	情報通信研究機構
監 事	加藤 照之	神奈川県温泉地学研究所
〃	鈴木 善和	プラタナス法律事務所
〃	氷見山 幸夫	北海道教育大学名誉教授

(2) 公益社団法人第9期（令和元年度）社員

定款第7条（法人の構成員）第2項により、正会員の中から選出された代議員をもって、公益社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。

■ 代議員： 149 名

定款第11条（代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置）第2項により、代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。

宇宙惑星科学（22名）

笠羽 康正 （ 東 北 大 学 ） 加藤 雄人 （ 東 北 大 学 ）
 倉本 圭 （ 北 海 道 大 学 ） 小久保 英一郎 （ 国 立 天 文 台 ）

佐々木 晶	(大 阪 大 学)	佐々木 貴教	(京 都 大 学)
清水 敏文	(宇宙航空研究開発機構)	関 華奈子	(東 京 大 学)
高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)	田近 英一	(東 京 大 学)
長妻 努	(情 報 通 信 研 究 機 構)	中村 昭子	(神 戸 大 学)
中村 卓司	(国 立 極 地 研 究 所)	中本 泰史	(東 京 工 業 大 学)
能勢 正仁	(名 古 屋 大 学)	はしもと じょーじ	(岡 山 大 学)
三好 由純	(名 古 屋 大 学)	百瀬 宗武	(茨 城 大 学)
保井 みなみ	(神 戸 大 学)	横山 央明	(東 京 大 学)
吉川 顕正	(九 州 大 学)	渡邊 誠一郎	(名 古 屋 大 学)

大気水圏科学 (30 名)

伊藤 進一	(東 京 大 学)	大手 信人	(京 都 大 学)
沖 理子	(宇宙航空研究開発機構)	蒲生 俊敬	(所 属 な し)
川合 義美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	川口 慎介	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
河宮 未知生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	近藤 豊	(国 立 極 地 研 究 所)
佐藤 正樹	(東 京 大 学)	佐藤 薫	(東 京 大 学)
杉山 慎	(北 海 道 大 学)	竹内 望	(千 葉 大 学)
谷口 真人	(総合地球環境学研究所)	津田 敏隆	(情 報 ・ シ ス テ ム 研 究 機 構)
東塚 知己	(東 京 大 学)	時長 宏樹	(九 州 大 学)
中村 尚	(東 京 大 学)	早坂 忠裕	(東 北 大 学)
原田 尚美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	樋口 篤志	(千 葉 大 学)
日比谷 紀之	(東 京 大 学)	檜山 哲哉	(名 古 屋 大 学)
三浦 裕亮	(東 京 大 学)	三好 建正	(理 化 学 研 究 所)
村山 泰啓	(情 報 通 信 研 究 機 構)	安成 哲平	(北 海 道 大 学)
山内 恭	(国 立 極 地 研 究 所)	吉川 裕	(京 都 大 学)
吉田 尚弘	(東 京 工 業 大 学)	渡辺 真吾	(海 洋 研 究 開 発 機 構)

地球人間圏科学 (18 名)

青木 賢人	(金 沢 大 学)	秋本 弘章	(獨 協 大 学)
井田 仁康	(筑 波 大 学)	小口 高	(東 京 大 学)
小口 千明	(埼 玉 大 学)	奥村 晃史	(広 島 大 学)
北村 有迅	(鹿 児 島 大 学)	熊野 善介	(静 岡 大 学)
近藤 昭彦	(千 葉 大 学)	佐竹 健治	(東 京 大 学)
島津 弘	(立 正 大 学)	須貝 俊彦	(東 京 大 学)
徳永 朋祥	(東 京 大 学)	七山 太	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
春山 成子	(三 重 大 学)	氷見山 幸夫	(北海道教育大学名誉教授)
松本 淳	(首 都 大 学 東 京)	安成 哲三	(総合地球環境学研究所)

固体地球科学 (50 名)

サティッシュ クマール マドスーダン (新潟大学)	阿部 なつ江 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
---------------------------	----------------------------

飯沼 卓史	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	井出 哲	(東 京 大 学)
入舩 徹男	(愛 媛 大 学)	岩田 知孝	(京 都 大 学)
岩森 光	(東 京 大 学)	ウォリス サイモン	(東 京 大 学)
歌田 久司	(東 京 大 学)	大園 真子	(北 海 道 大 学)
大谷 栄治	(東 北 大 学)	鍵 裕之	(東 京 大 学)
片山 郁夫	(広 島 大 学)	川勝 均	(東 京 大 学)
木村 学	(東 京 海 洋 大 学)	木村 純一	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
久家 慶子	(京 都 大 学)	下司 信夫	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
小木曾 哲	(京 都 大 学)	坂口 有人	(山 口 大 学)
篠原 宏志	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	島 伸和	(神 戸 大 学)
鈴木 勝彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	武井 康子	(東 京 大 学)
田所 敬一	(名 古 屋 大 学)	田中 聡	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
趙 大鵬	(東 北 大 学)	辻 健	(九 州 大 学)
辻森 樹	(東 北 大 学)	中川 光弘	(北 海 道 大 学)
中原 恒	(東 北 大 学)	中村 美千彦	(東 北 大 学)
成瀬 元	(京 都 大 学)	西村 太志	(東 北 大 学)
西山 忠男	(熊 本 大 学)	橋本 武志	(北 海 道 大 学)
馬場 俊孝	(徳 島 大 学)	浜野 洋三	(神 戸 大 学)
針金 由美子	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	深畑 幸俊	(京 都 大 学)
福島 洋	(東 北 大 学)	福山 英一	(京 都 大 学)
藤田 英輔	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)	古村 孝志	(東 京 大 学)
前田 拓人	(弘 前 大 学)	前野 深	(東 京 大 学)
松澤 孝紀	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)	松原 誠	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)
道林 克禎	(名 古 屋 大 学)	森下 知晃	(金 沢 大 学)

地球生命科学 (13名)

池原 実	(高 知 大 学)	井上 麻夕里	(岡 山 大 学)
井龍 康文	(東 北 大 学)	遠藤 一佳	(東 京 大 学)
大河内 直彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	岡崎 裕典	(九 州 大 学)
掛川 武	(東 北 大 学)	金子 雅紀	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
川幡 穂高	(東 京 大 学)	ジェンキンズ ロバート	(金 沢 大 学)
高野 淑識	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	豊福 高志	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
西 弘嗣	(東 北 大 学)		

地球惑星科学総合(16名)

市川 洋	(所 属 な し)	伊東 明彦	(宇 都 宮 大 学)
稲垣 史生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	上村 剛史	(立 命 館 宇 治 中 学 校 ・ 高 等 学 校)
小田 啓邦	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	小俣 珠乃	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
熊谷 英憲	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	佐野 有司	(東 京 大 学)
瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)	田口 康博	(千 葉 県 立 関 宿 高 等 学 校)

中井 咲織	(京 都 光 華 女 子 大 学)	中川 和之	(時 事 通 信 社 解 説 委 員)
畠山 正恒	(聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校)	宮嶋 敏	(埼 玉 県 立 熊 谷 高 等 学 校)
矢島 道子	(日 本 大 学)	横山 広美	(東 京 大 学)

■ 団体会員： 51 団体

日本宇宙生物科学会	生命の起原および進化学会	日本地熱学会
日本応用地質学会	石油技術協会	地理科学学会
日本温泉科学会	日本雪氷学会	日本地理学会
日本海洋学会	日本測地学会	日本地理教育学会
日本火山学会	日本大気化学会	地理教育研究会
形の科学会	日本大気電気学会	地理情報システム学会
日本活断層学会	日本堆積学会	東京地学協会
日本気象学会	日本第四紀学会	東北地理学会
日本鉱物科学会	日本地学教育学会	土壌物理学会
日本古生物学会	地学団体研究会	日本粘土学会
日本沙漠学会	日本地下水学会	日本農業気象学会
資源地質学会	日本地球化学会	物理探査学会
日本地震学会	地球環境史学会	陸水物理研究会
日本情報地質学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	日本リモートセンシング学会
日本水文科学会	日本地形学連合	日本惑星科学会
水文・水資源学会	日本地質学会	日本自然災害学会
生態工学会	日本地図学会	日本有機地球化学会

(3) セクションボード

□ 宇宙惑星科学セクション

高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)	倉本 圭	(北 海 道 大 学)
関 華奈子	(東 京 大 学)	能勢 正仁	(名 古 屋 大 学)
保井 みなみ	(神 戸 大 学)	相川 祐理	(東 京 大 学)
牛尾 知雄	(大 阪 大 学)	大村 善治	(京 都 大 学)
笠羽 康正	(東 北 大 学)	加藤 雄人	(東 北 大 学)
草野 完也	(名 古 屋 大 学)	小久保 英一郎	(国 立 天 文 台)
佐々木 晶	(大 阪 大 学)	佐々木 貴教	(京 都 大 学)
清水 敏文	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	鈴木 健	(東 京 大 学)
田近 英一	(東 京 大 学)	橘 省吾	(東 京 大 学)
出村裕英	(公 立 大 学)	寺田直樹	(東 北 大 学)
長澤真樹子	(久 留 米 大 学)	長妻 努	(情 報 通 信 研 究 機 構)
中村 昭子	(神 戸 大 学)	中村 卓司	(国 立 極 地 研 究 所)
中本 泰史	(東 京 工 業 大 学)	並木 則行	(国 立 天 文 台)
はしもと じょーじ	(岡 山 大 学)	藤井 良一	(情 報 ・ シ ス テ ム 研 究 機 構)
藤本晶子	(九 州 工 業 大 学)	三好 由純	(名 古 屋 大 学)
百瀬 宗武	(茨 城 大 学)	薮田ひかる	(広 島 大 学)

横山 央明	(東 京 大 学)	吉川 颯正	(九 州 大 学)
フイシン リュー	(九 州 大 学)	和田 浩二	(千 葉 工 業 大 学)
渡邊 誠一郎	(名 古 屋 大 学)		

□ 大気水圏科学セクション

蒲生 俊敬	(所 属 な し)	佐藤 薫	(東 京 大 学)
谷口 真人	(総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)	川合 義美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
伊藤 進一	(東 京 大 学)	沖 理子	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
神沢 博	(名 古 屋 大 学 名 誉 教 授)	河宮 未知生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
北 和之	(茨 城 大 学)	鬼頭 昭雄	(気 象 業 務 支 援 セ ン タ ー)
近藤 豊	(国 立 極 地 研 究 所)	佐藤 正樹	(東 京 大 学)
杉田 倫明	(筑 波 大 学)	鈴木 啓助	(信 州 大 学)
多田 隆治	(千 葉 工 業 大 学)	知北 和久	(北 海 道 大 学)
津田 敏隆	(情 報 ・ シ ス テ ム 研 究 機 構)	坪木 和久	(名 古 屋 大 学)
東塚 知己	(東 京 大 学)	中島 映至	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
中村 尚	(東 京 大 学)	西井 和晃	(三 重 大 学)
花輪 公雄	(東 北 大 学)	早坂 忠裕	(東 北 大 学)
原田 尚美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	樋口 篤志	(千 葉 大 学)
日比谷 紀之	(東 京 大 学)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
村山 泰啓	(情 報 通 信 研 究 機 構)	安成 哲平	(北 海 道 大 学)
吉田 尚弘	(東 京 工 業 大 学)		

□ 地球人間圏科学セクション

奥村 晃史	(広 島 大 学)	佐竹 健治	(東 京 大 学)
近藤 昭彦	(千 葉 大 学)	須貝 俊彦	(東 京 大 学)
青木 賢人	(金 沢 大 学)	秋本 弘章	(獨 協 大 学)
石井 励一郎	(総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)	井田 仁康	(筑 波 大 学)
碓井 照子	(奈 良 大 学)	王 勤学	(国 立 環 境 研 究 所)
小口 高	(東 京 大 学)	小口 千明	(埼 玉 大 学)
木村 圭司	(奈 良 大 学)	後藤 和久	(東 京 大 学)
西城 潔	(宮 城 教 育 大 学)	島津 弘	(立 正 大 学)
白井 正明	(首 都 大 学 東 京)	杉戸 信彦	(法 政 大 学)
鈴木 毅彦	(東 京 都 立 大 学)	鈴木 康弘	(名 古 屋 大 学)
瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)	千木良 雅弘	(京 都 大 学)
中村 俊夫	(名 古 屋 大 学)	奈佐原 颯郎	(筑 波 大 学)
七山 太	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	西村 拓	(東 京 大 学)
氷見山 幸夫	(北 海 道 教 育 大 学 名 誉 教 授)	藤本 潔	(南 山 大 学)
藤原 広行	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)	古谷 勝則	(千 葉 大 学)
堀 和明	(名 古 屋 大 学)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
松山 洋	(首 都 大 学 東 京)	目代 邦康	(総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)
安成 哲三	(東 京 大 学)	山田 育穂	(国 立 環 境 研 究 所)
山野 博哉	(東 京 大 学)	横山 祐典	(明 治 大 学)
吉田 英嗣	(北 海 道 大 学)	渡辺 悌二	(北 海 道 大 学)

□ 固体地球科学セクション

大谷 栄治	(東 北 大 学)	田中 聡	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
道林 克禎	(名 古 屋 大 学)	生田 領野	(静 岡 大 学)
入舩 徹男	(愛 媛 大 学)	岩森 光	(東 京 大 学)
ウォリス サイモン	(東 京 大 学)	歌田 久司	(東 京 大 学)
大久保 修平	(西 南 交 通 大 学)	奥村 聡	(東 北 大 学)
鍵 裕之	(東 京 大 学)	片山 郁夫	(広 島 大 学)
金川 久一	(千 葉 大 学)	唐戸 俊一郎	(イ エ ー ル 大 学)
川勝 均	(東 京 大 学)	河上 哲生	(京 都 大 学)

川本 竜彦	(静 岡 大 学)	木村 純一	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
サティッシュ クマール マドスーダン	(新潟大学)	佐野 有司	(東 京 大 学)
島 伸和	(神 戸 大 学)	鈴木 勝彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
田上 高広	(京 都 大 学)	田所 敬一	(名 古 屋 大 学)
中川 光弘	(北 海 道 大 学)	中田 節也	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)
中村 美千彦	(東 北 大 学)	成瀬 元	(京 都 大 学)
西山 忠男	(熊 本 大 学)	福田 洋一	(京 都 大 学)
古村 孝志	(東 京 大 学)	日置 幸介	(北 海 道 大 学)
前野 深	(東 京 大 学)	森下 知晃	(金 沢 大 学)
吉田 茂生	(九 州 大 学)		

□ 地球生命科学セクション

遠藤 一佳	(東 京 大 学)	磯崎 行雄	(東 京 大 学)
小林 憲正	(横 浜 国 立 大 学)	生形 貴男	(京 都 大 学)
高野 淑識	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	池原 実	(高 知 大 学)
稲垣 史生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	井上 麻夕里	(岡 山 大 学)
井龍 康文	(東 北 大 学)	上野 雄一郎	(東 京 工 業 大 学)
大河内 直彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	岡崎 裕典	(九 州 大 学)
小俣 珠乃	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	掛川 武	(東 北 大 学)
金子 雅紀	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	川口 慎介	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
川幡 穂高	(東 京 大 学)	北台 紀夫	(東 京 工 業 大 学)
北村 晃寿	(静 岡 大 学)	癸生川陽子	(横 浜 国 立 大 学)
小宮 剛	(東 京 大 学)	ロバート ジェンキンズ	(金沢大学)
鈴木 庸平	(東 京 大 学)	高井 研	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
高橋 嘉夫	(東 京 大 学)	對比地 孝亘	(国 立 科 学 博 物 館)
豊福 高志	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	中井 咲織	(京 都 光 華 女 子 大 学)
西 弘嗣	(東 北 大 学)	藤田 和彦	(琉 球 大 学)
守屋和佳	(早 稲 田 大 学)	矢島 道子	(日 本 大 学)
山岸 明彦	(東 京 薬 科 大 学)	北里 洋	(東 京 海 洋 大 学)

(4) 委員会等

□ 総務委員会

西 弘嗣	(東 北 大 学)	成瀬 元	(京 都 大 学)
日比谷 紀之	(東 京 大 学)	古村 孝志	(東 京 大 学)

□ 財務委員会

河宮 未知生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	掛川 武	(東 北 大 学)
井出 哲	(東 京 大 学)	山田 育穂	(東 京 大 学)

□ 広報普及委員会

田近 英一	(東 京 大 学)	関根 康人	(東 京 大 学)
道林 克禎	(名 古 屋 大 学)	高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)
原 辰彦	(建 築 研 究 所)	瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)
阿部 彩子	(東 京 大 学)	橘 省吾	(東 京 大 学)
飯田 佑輔	(関 西 学 院 大 学)	谷 篤史	(神 戸 大 学)
植田 宏昭	(筑 波 大 学)	東宮 昭彦	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
生形 貴男	(京 都 大 学)	成瀬 元	(京 都 大 学)
大河内 直彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	能勢 正仁	(名 古 屋 大 学)
岡 顕	(東 京 大 学)	宮本 英昭	(東 京 大 学)
奥村 晃史	(広 島 大 学)	村上 豪	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
笠井 康子	(通 信 総 合 研 究 所)	山田 耕	(早 稲 田 大 学)
久利 美和	(東 北 大 学)	横山 広美	(東 京 大 学)
黒田 潤一郎	(東 京 大 学)	吉澤 和範	(北 海 道 大 学)

後藤 和久 (東 京 大 学)
 紺屋 恵子 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 佐藤 活志 (京 都 大 学)

吉本 和生 (横 浜 市 立 大 学)
 和田 浩二 (千 葉 工 業 大 学)

□ 環境災害対応委員会

松本 淳 (東 京 大 学)
 小口 千明 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 佐藤 浩 (茨 城 大 学)
 奥村 晃史 (日 本 大 学)
 井口 隆 (防 災 科 学 技 術 研 究 所)
 高木 朗充 (国 立 環 境 研 究 所)
 小司 禎教 (三 重 大 学)
 上石 勲 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 宮地 良典 (国 立 極 地 研 究 所)
 松島 政貴 (茨 城 大 学)
 柳澤 教雄 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 浅野 敏久 (山 形 大 学)
 大月 義徳 (広 島 大 学)
 卜部 厚志 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 吉見 雅行 (京 都 大 学)
 林 武司 (東 京 学 芸 大 学)
 北村 晃寿 (金 沢 大 学)
 高橋 幸弘 (京 都 大 学)
 田中 茂信 (東 京 海 洋 大 学)
 齋藤 仁 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 米山 望 (国 立 環 境 研 究 所)

井出 哲 (埼 玉 大 学)
 川畑 大作 (日 本 大 学)
 北 和之 (広 島 大 学)
 竹村 貴人 (防 災 科 学 技 術 研 究 所)
 千葉 達朗 (アジア航測株式会社)
 秋吉 英治 (気 象 研 究 所)
 葛葉 泰久 (防 災 科 学 技 術 研 究 所)
 松本 弾 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 行松 彰 (東 京 工 業 大 学)
 小荒井 衛 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 宇根 寛 (広 島 大 学)
 村山 良之 (東 北 大 学)
 作野 裕司 (新 潟 大 学)
 鈴木 正哉 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 松島 信一 (秋 田 大 学)
 青木 久 (静 岡 大 学)
 福士 圭介 (北 海 道 大 学)
 松四 雄騎 (京 都 大 学)
 北出 裕二郎 (関 東 学 院 大 学)
 長島 佳菜 (京 都 大 学)

□ ダイバーシティ推進委員会

小口 千明 (埼 玉 大 学)
 阿部 なつ江 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 坂野井 和代 (駒 澤 大 学)
 安成 哲平 (北 海 道 大 学)
 天野 敦子 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 新井 真由美 (日 本 科 学 未 来 館)
 大垣内 るみ (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 小川 佳子 (会 津 大 学)
 小杉 緑子 (京 都 大 学 大 学 院)
 紺屋 恵子 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 陣 英克 (電 磁 波 計 測 研 究 所)
 末吉 哲雄 (国 立 極 地 研 究 所)
 宋 苑瑞 (法 政 大 学 経 済 学 部)
 高橋 幸弘 (北 海 道 大 学)
 馬場 俊孝 (徳 島 大 学)
 土屋 範芳 (東 北 大 学)
 津野 宏 (横 浜 国 立 大 学)

戸崎 裕貴 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 南雲 直子 (土 木 研 究 所)
 浜田 盛久 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 濱村 奈津子 (九 州 大 学)
 原田 尚美 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 藤光 康宏 (九 州 大 学)
 古市 剛久 (北 海 道 大 学)
 堀 利栄 (愛 媛 大 学)
 前野 深 (東 京 大 学)
 松山 洋 (首 都 大 学 東 京)
 宮下 由香里 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 守屋 和佳 (早 稲 田 大 学)
 山下 勝行 (岡 山 大 学)
 吉川 知里 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 若狭 幸 (秋 田 大 学)
 渡邊 誠一郎 (名 古 屋 大 学)

□ 教育検討委員会

市川 洋 (所 属 な し)
 宮嶋 敏 (埼 玉 県 立 熊 谷 高 校)
 木村 学 (東 京 海 洋 大 学)
 阿部 なつ江 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 阿部 國廣 (島根半島・宍道湖鳴海 (国引き)
 ジオパーク推進協議会)
 飯田 和明 (埼 玉 県 立 浦 和 東 高 等 学 校)

中井 仁 (小 淵 沢 総 合 研 究 施 設)
 西 弘嗣 (東 北 大 学)
 西村 光史 (東 洋 大 学)
 西山 忠男 (熊 本 大 学)
 縫村 崇行 (東 京 電 機 大 学)
 根本 泰雄 (立 命 館 大 学)

石内 鉄平 (宮 城 大 学)
 市川 温 (京 都 大 学)
 小田 隆史 (宮 城 教 育 大 学)
 島津 弘 (立 正 大 学)
 白井 正明 (首 都 大 学 東 京)
 相馬 宣和 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 瀧上 豊 (関 東 学 園 大 学)
 田口 康博 (千 葉 県 立 銚 子 高 校)
 津野 宏 (横 浜 国 立 大 学)

畠山 正恒 (聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校)
 林信太郎 (秋 田 大 学)
 藤原 靖 (横 浜 国 立 大 学)
 南島 正重 (東 京 都 立 両 国 高 等 学 校)
 山田 伸之 (高 知 大 学)
 三田 肇 (福 岡 工 業 大 学)
 小西 啓之 (大 阪 教 育 大 学)
 林 慶一 (甲 南 大 学 理 工 学 部)

□ 情報システム委員会

村山 泰啓 (情 報 通 信 研 究 機 構)
 近藤 康久 (総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)
 小口 高 (東 京 大 学)
 河宮 未知生 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 小山 幸伸 (近 畿 大 学 高 等 専 門 学 校)

坂野井 和代 (駒 澤 大 学)
 能勢 正仁 (名 古 屋 大 学)
 早川 裕弼 (東 京 大 学)
 古村 孝志 (東 京 大 学)
 山本 佳世子 (電 気 通 信 大 学)

□ ジャーナル企画経営委員会

川幡 穂高 (東 京 大 学)
 津田 敏隆 (情 報 ・ シ ス テ ム 研 究 機 構)
 木村 学 (東 京 海 洋 大 学)
 倉本 圭 (北 海 道 大 学)
 井龍 康文 (東 北 大 学)
 吉岡 祥一 (神 戸 大 学)
 仲江川 敏之 (気 象 研 究 所)

河宮 未知生 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 多田 隆治 (千 葉 工 業 大 学)
 松本 淳 (首 都 大 学 東 京)
 田近 英一 (東 京 大 学)
 小田 啓邦 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 西 弘嗣 (東 北 大 学)

□ ジャーナル編集委員会

井龍 康文 (東 北 大 学)
 吉岡 祥一 (神 戸 大 学)
 多田 隆治 (千 葉 工 業 大 学)
 倉本 圭 (北 海 道 大 学)
 長妻 努 (情 報 通 信 研 究 機 構)
 池原 研 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 岩渕 弘信 (東 北 大 学)
 岡 顕 (東 京 大 学)
 三浦 裕亮 (東 京 大 学)
 菊地 俊夫 (東 京 都 立 大 学)
 早川 裕弼 (北 海 道 大 学)
 齋藤 文紀 (島 根 大 学)
 川勝 均 (東 京 大 学)
 渋谷 和雄 (国 立 極 地 研 究 所)
 遠田 晋次 (東 北 大 学)
 平島 崇男 (京 都 大 学)
 前田 拓人 (弘 前 大 学)
 渡辺 寧 (秋 田 大 学)
 後藤 和久 (東 京 大 学)
 小林 憲正 (横 浜 国 立 大 学)
 高野 淑識 (海 洋 研 究 開 発 機 構)

川幡 穂高 (東 京 大 学)
 河宮 未知生 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 松本 淳 (東 京 都 立 大 学)
 大竹真紀子 (会 津 大 学)
 山本 衛 (京 都 大 学)
 井上 源喜 (大 妻 女 子 大 学)
 大手 信人 (京 都 大 学)
 金谷 有剛 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 芳村 圭 (東 京 大 学)
 千木良 雅弘 (深 田 地 質 研 究 所)
 村山 祐司 (筑 波 大 学)
 大谷 栄治 (東 北 大 学)
 サイモン・ウォリス (東 京 大 学)
 清水 久芳 (東 京 大 学)
 中川 光弘 (北 海 道 大 学)
 福島 洋 (東 北 大 学)
 八木 勇治 (筑 波 大 学)
 遠藤 一佳 (東 京 大 学)
 掛川 武 (東 北 大 学)
 岡崎 裕典 (九 州 大 学)

□ 大会運営委員会

浜野 洋三 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 北 和之 (茨 城 大 学)
 道林 克禎 (名 古 屋 大 学)
 和田 浩二 (千 葉 工 業 大 学)

興野 純 (筑 波 大 学)
 高橋 幸弘 (北 海 道 大 学)
 中村 昭子 (神 戸 大 学)
 財城 真寿美 (成 蹊 大 学)

赤坂 郁美 (専 修 大 学) 小谷 亜由美 (名 古 屋 大 学)
 縫村 崇行 (東 京 電 機 大 学) 中川 貴司 (香 港 大 学)
 飯田 佑輔 (新 潟 大 学) 山田 育穂 (東 京 大 学)

□ グローバル戦略委員会

ウォリス サイモン (東 京 大 学) 橘 省吾 (東 京 大 学)
 高橋 幸弘 (北 海 道 大 学) 津川 卓也 (情 報 通 信 研 究 機 構)
 遠藤 一佳 (東 京 大 学) 中川 貴司 (香 港 大 学)
 大谷 栄治 (東 北 大 学) 中村 尚 (東 京 大 学)
 奥村 晃史 (広 島 大 学) 西 弘嗣 (東 北 大 学)
 蒲生 俊敬 (所 属 な し) 春山 成子 (三 重 大 学 名 誉 教 授)
 木下 正高 (東 京 大 学) 日比谷 紀之 (東 京 大 学)
 木村 学 (東 京 海 洋 大 学) 藤本 正樹 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
 久保田 尚之 (北 海 道 大 学) 松本 淳 (首 都 大 学 東 京)
 齋藤 文紀 (島 根 大 学) 三宅 弘恵 (東 京 大 学)
 末広 潔 (海 洋 研 究 開 発 機 構) 村山 泰啓 (情 報 通 信 研 究 機 構)
 関 華奈子 (東 京 大 学) 安成 哲平 (北 海 道 大 学)
 平 貴昭 (カ リ フ ォ ル ニ ア 大 学) 山田 育穂 (東 京 大 学)
 田島 文子 (カ リ フ ォ ル ニ ア 大 学)

□ 顕彰委員会

中村 昭子 (神 戸 大 学) 川勝 均 (東 京 大 学 地 震 研 究 所)
 成瀬 元 (京 都 大 学) 小林 憲正 (横 浜 国 立 大 学)
 飯田 真一 (森 林 総 合 研 究 所) 近藤 昭彦 (千 葉 大 学)
 磯崎 行雄 (東 京 大 学) 佐々木 晶 (大 阪 大 学)
 伊藤 進一 (東 京 大 学) 鈴木 毅彦 (首 都 大 学 東 京)
 ウォリス サイモン (東 京 大 学) 長妻 努 (情 報 通 信 研 究 機 構)

□ フェロー審査委員会

非公表

※ 審査委員会規則第6条により、委員名は当該年度の全委員が改選された時点で公表するものとする。

□ 西田賞審査委員会

非公表

※ 審査委員会規則第6条により、委員名は受賞者が決定した時点で公表するものとする。

□ 三宅賞審査委員会

非公表

2. 役員会等に関する事項

(1) 令和元年度定期社員総会

令和元年5月28日(火) 15:30～16:30、千葉幕張メッセ国際会議場 コンベンションホールAにおいて開催。次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催月日	議 事 事 項	
令和元年5月28日	(1) 第1号議案 平成30年度(公益社団法人第8期)決算承認の件	承認

(2) 理事会

今期中に6回開催した。主要決議事項は以下の通りである。

開催月日	議 事 事 項	
令和元年 第1回 5月10日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 総会議事および決算等の承認 第3号議案 寄附規則設置の件 第4号議案 特定資産規則設置の件 第5号議案 Global Pledge承認の件 第6号議案 2019年PEPS Award受賞論文の承認 第7号議案 理事会傍聴の件 第8号議案 その他	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
第2回 7月22日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 新入会賛助会員承認の件 第3号議案 選挙管理委員会設置と選挙日程設定の件 第4号議案 委員会委員承認の件 第5号議案 「アースサイエンスウィーク・ジャパンin 静岡2019」の共催 第6号議案 会長声明「京都大学による研究不正調査結果と論文撤回を受けて」の件	承認 承認 承認 承認 承認 承認
第3回 10月4日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 特定資産取扱規則設置の件 第4号議案 会計処理規則改訂の件 第5号議案 地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則改訂の件 第6号議案 理事候補者選挙実施細則改訂の件 第7号議案 三宅賞審査委員会規則改訂の件 第8号議案 その他（台湾のChinese Geoscience UnionとのMOUについて）	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
第4回 11月28日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 その他（末広潔氏を次期事務局長として雇用）	承認 承認 承認
第5回 令和二年 1月21日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 地球惑星科学総合に関するタスクフォース設置の件 第3号議案 (緊急動議) (1) 寄附規則の改訂について (2) 事務局の人事について	承認 承認 継続審議 承認
第6回 3月23日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 賛助会員入会承認の件 第3号議案 新規委員承認の件 第4号議案 2020年度事業計画書および収支予算書承認の件 第5号議案 30周年記念事業特定費用準備資金の件 第6号議案 定款第12条改訂の件 第7号議案 倫理規則設置の件 第8号議案 地球惑星科学者の行動規範の制定の件 第9号議案 慶弔規則改訂の件 第10号議案 寄附金取扱規則改訂の件 第11号議案 ユニオンセッション参加登録料の件 第12号議案 2020年度フェロー承認の件 第13号議案 三宅賞受賞者承認の件 第14号議案 2020連合大会キャリア業務委託の件	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

(3) 学協会長会議

- ・2019年5月28日（火）12時30分から13時23分 幕張メッセ国際会議場 101
 - ・2019年10月15日（火）15時00分から16時00分
- 議題は以下の通りである。

開催月日	議 事 事 項
------	---------

第 20 回 5 月 28 日	1. 前回議事録確認 2. 新規加入学協会の紹介：日本有機地球化学会 3. 日本地球惑星科学連合活動報告 4. 日本学術会議の近況報告 5. 次期学協会長会議議長の選任 6. その他
第 21 回 10 月 15 日	1. 前回議事録確認 2. 日本地球惑星科学連合活動報告 3. 日本学術会議の近況報告 4. その他

3. 関連団体との連携及び協力に関する事項

□ 共催・協賛・後援等

承認日	種別	会合名等	開催期間
4月11日	後援	第60回高圧討論会	2019年10月23日～10月25日
4月20日	後援	SuperDARN Workshop 2019	2019年6月2日～6月7日
6月10日	後援	公開シンポジウム「Future Earth 時代における地球表層システム科学と防災・減災研究」	2019年8月7日
7月8日	後援	公開シンポジウム「地球環境変動と人間活動—世界各地で急速に深刻化する地球温暖化の影響と対策—」	2019年12月21日
8月5日	協賛	2019年 URSI 日本電波科学会議	2019年9月5日～9月6日
9月2日	後援	第63回粘土科学討論会	2019年9月10日～9月12日
10月1日	後援	地学オリンピック日本委員会による地球科学普及講演会「地球をぶらり」	2019年11月9日
10月15日	後援	国連の持続可能な海洋科学の10年「One Ocean」の行動に向けて	2019年11月6日
10月24日	協賛	2019年度量子ビームサイエンスフェスタ	2020年3月12日～3月14日
1月10日	後援	25th “Science in Japan” Forum (Tentative)	2020年6月12日
1月15日	後援	第14回宇宙空間シミュレーション国際学校	2020年9月10日～9月18日
1月16日	共催	地質災害の研究とその調査方法の標準化に向けた取り組み	2020年5月23日
1月22日	後援	科学教育研究協議会 第68回全国研究大会・福島大会	2020年8月1日～8月3日

サポートレター

なし

声明

7月18日「京都大学による研究不正調査結果と論文撤回を受けて」

4. 登記、申請等に関する事項

なし

5. 職員に関する事項

勤務形態	第 8 期末	第 9 期末	前期末比増減	備考
週 5 日勤務	1 名	1 名	0 名	
週 4 日勤務	5 名	5 名	0 名	
週 2 日勤務	0 名	0 名	0 名	
週 1 日勤務	2 名	3 名	1 名	
合 計	8 名	9 名	1 名	

6. その他

(1) 特定費用準備資金に関する事項

「地球惑星科学振興西田賞準備資金」を「地球惑星科学振興西田賞資金」に変更した。(10月4日理事会決議)

(2) 連合諸規則・規程等の制定と改正

公益社団法人日本地球惑星科学連合寄附金取扱規則を設置した。(5月10日理事会決議)

日本地球惑星科学連合大会インセンティブ資金取扱規則を設置した。(5月10日理事会決議)

特定資産取扱規則を設置した。(10月4日理事会決議)

会計処理規則を改訂した。(10月4日理事会決議)

地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則を改訂した。(10月4日理事会決議)

理事候補者選挙実施細則を改訂した。(10月4日理事会決議)

公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会設置規則を改訂した。(10月4日理事会決議)

定款第12条の改訂を定時社員総会に諮ることを承認した。

第7号議案 倫理規則を設置した。(3月23日理事会決議)

第8号議案 地球惑星科学者の行動規範を設置した。(3月23日理事会決議)

第9号議案 慶弔規則改訂を改訂した。(3月23日理事会決議)

第10号議案 寄附金取扱規則改訂を改訂した。(3月23日理事会決議)

II. 会員の状況

(令和元年 3 月末現在)

	第 4 期末	第 5 期末	第 6 期末	第 7 期末	第 8 期末	第 9 期末	増減
--	--------	--------	--------	--------	--------	--------	----

個人会員

正会員	7610	8021	8118	8184	8565	9023	458
準会員 (学部生以下)	410	418	663	956	1231	1475	244
大会会員	699	1061	703	518	567	640	75

団体会員

	50	50	50	49	50	51	1
--	----	----	----	----	----	----	---

賛助会員

	2	6	7	8	8	10	2
--	---	---	---	---	---	----	---

令和 2 年度 事業計画書

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080 Fax：03-6914-2088

令和2年度事業計画書

公益社団法人第10期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

令和2年(2020年)度は、公益社団法人日本地球惑星科学連合(以下、「連合」という。)の目的として定款に定める、「我が国の地球惑星科学コミュニティを代表し、国際連携及び社会への情報発信、関連分野の研究発表及び情報交換を行い、学術及び科学技術の振興等に寄与することを目的とする活動」を特に推進する。本年は、AGU(米国地球物理学連合)との二度目の共同開催となる JpGU-AGU Joint Meeting 2020 を千葉県幕張メッセで開催する予定で準備を進めている。第一回の JpGU-AGU Joint Meeting を上回る最先端の研究成果の発表会とするよう努力する。今年度の大会では、AGU、欧州地球科学連合(EGU)、アジア大洋州地球科学会(AOGS)とも、共同セッションなどの開催を通じて 組織間の国際連携を一層強化し、地球惑星科学の更なる国際化の展開と発展を目指すとともに、中長期の活動をよりレベルアップするよう努力する。令和2年(2020年)度に日本地球惑星科学連合(前身の合同大会含む)は30周年を迎えることもあり、MOUを結んでいる上記AGU、EGU、AOGSと特別セッションを開催し、「Diversity (多様性)」、「Equality (平等)」、「Inclusion (個人に適合した処遇)」、「Open date」、「Open Science」、「Open access journal」、「Geoethics (地球科学における行動規範)」など将来の課題についても深く議論する予定である。

連合が大会とともに核心的活動と位置づけているジャーナル出版についても、継続的に発展させる。なお、大会期間を「JpGU 期間」と呼称し、研究発表のみならず、連合加盟学会の総会などを含む学会活動、行事、海外の若手研究者との懇談など、「地球惑星科学に関するすべて活動を行う有意義な週間」となるよう努力する。

I. 事業の概要

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

(1) JpGU-AGU Joint Meeting 2020 の開催

地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する研究発表を通じて、地球惑星科学の進歩と普及を図ることを目的に、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象として、公開による学術大会を開催し、関連分野の研究発表と情報交換の場を設ける。また、地球惑星科学に関連した研究教育機関、学協会、民間企業からの最新の情報や、各種プロジェクトの成果を大会参加者に紹介するための展示を設けるとともに、学術研究及び教育に有益な、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示を行う。

□ JpGU-AGU Joint Meeting 2020

会 期：2020 年 5 月 24 日(日)～28 日(木)5 日間

場 所：幕張メッセ（国際会議場、国際展示場 8 ホール）、東京ベイ幕張ホール

大会委員長：榎並正樹(名古屋大学)

主 催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

協 賛：6 学協会（公益社団法人日本天文学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本地震工学会、公益社団法人日本地すべり学会、公益社団法人地盤工学会、日本サンゴ礁学会）

開催セッション数：288

カテゴリー別	開催数
ユニオン	21
P: 宇宙惑星科学	27
A: 大気水圏科学	60
H: 地球人間圏科学	35
S: 固体地球科学	71
B: 地球生命科学	7
G: 教育アウトリーチ	4
M: 領域外・複数領域	57
計	288

発表論文数：5000 件（概算、予定）

参加者数：8000 人（見込み）

展示企画（ブース数）：団体展示（70）、書籍出版関連商品（30）、大学インフォメーションパネル（12）、学協会エリア個別デスク（13）、パンフレットデスク展示（7）

「スペシャルレクチャー」の開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する。異分野の聴衆を対象に、「わかりやすい」内容となる講演会を開催する。

期 日： 5 月 25 日(月)～28 日(木)

場 所： 会場内

主 催： 大会運営委員会

(2) 「高校生によるポスター発表」の開催

将来を担う高校生を対象に、授業や課外活動で行った地球惑星科学に関連する研究や学習の成果を研究者に対して発表するため、連合大会初日（5 月 24 日、日曜日）にポスター発表会を開催する。今年度も前年度程度（80 件）の発表を予定している。

(3) 地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、連合大会会期中に一般公開プログラムを開催する。

また、冬季（12 月予定）に一般市民（とくに高校生）を対象として、「日本地球惑星科学連合 冬の公開講演会 2020」を開催予定である。

□ 連合大会パブリックセッション（予定）

「学校教育で使用されている地球惑星科学教材」

「変化する気候下での強風災害にどう取り組むか」

「地球・惑星科学トップセミナー」

「高校生によるポスター発表」

「日本のジオパークから日本列島の成り立ちを知る」

「キッチン地球科学：手を動かす実験で頭脳を刺激しよう！」

□ 中高生のための「NASA—JAXAハイパーウォール講演会」

□ 日本地球惑星科学連合 冬の公開講演会 2020

期 日：2020 年 12 月（予定）

場 所：東京大学理学部小柴ホール（予定）

主 催：広報普及委員会

内 容：地球惑星科学分野の最新の研究成果を、高校生を中心に広く一般市民向けにわかりやすく紹介・解説する公開講演会。（内容は未定）

(4) 地球惑星科学関連の研究教育機関・学協会・プロジェクト・民間企業の紹介および展示、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示・頒布

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設ける。

地球惑星科学に関連する書籍、資料の公刊物を多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々の利用促進をはかる。

2. 地球惑星科学に関わる研究成果の刊行及び教育普及

我が国の地球惑星科学及び関連科学の振興と普及を目的として、地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する知識や情報の交換の促進を図るために、連合学術誌の出版事業とともに、連合加盟学協会の出版事業の広報普及の支援を行う。

(1) 連合学術誌の出版の高度化

平成 26 年 4 月に初版が発刊された連合のオープン・アクセス (OA) 電子ジャーナル”Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)” のさらなる国際情報発信力強化を図る。H30 年度に、ジャーナルの世界的評価指標である Clarivate Analytics (旧 Thomson Reuter) の IF (インパクト・ファクター) と Elsevier/Scopus の Cite Score を取得し、今年度はさらに高い値を取得した。これにより、PEPS が一定のレベルで発展している事が数値により裏付けされた。

今後は、ジャーナルの認知度をさらに高め、投稿及び引用を促進するための施策を推進する。具体的には、国内外の国際会議へのブース出展やパンフレットへの広告掲載などを通じて関係部門とも協力して広報活動を実施するとともに、出版論文の効果的な紹介や著名研究者への Review 論文投稿依頼などにより引用促進に取り組む。また、JpGU-AGU joint meeting 2020 を活用し、コンビーナ推薦の優秀発表への投稿依頼、セッションコンビーナへの SPEPS 特集号の働きかけをより強力に推進する。さらに、他ジャーナルとの協力体制を強め、連携して SPEPS 特集号の企画や相互 HP での紹介等を実施する。また、編集体制の見直しを行い、PEPS を継続出版するための体制の強化を図る。

(2) 連合加盟学協会による学術誌出版の広報普及支援

連合加盟学協会による十数種の国際誌出版を数えると、全体としては AGU、EGU に匹敵していることに鑑み、国際誌を出版する学協会に連合ロゴの掲載依頼をさらに働きかけ、共同で学術誌の広報普及活動を行う。具体的には、連合のホームページ上での紹介、海外で開催される AGU、EGU 等の国際学術大会で出展する連合ブースにおける展示紹介など、

日本の地球惑星科学コミュニティーを代表して、科学的知見に関する情報の発信をより強化する。

(3) ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

連合の会員（個人・団体会員）及び、科学館、博物館、高等学校教員、関連企業等の関係者や一般市民を対象として、地球惑星科学の研究成果の広報・普及を目的としてニュースレター誌「JGL」を年4号（予定）定期発行する。

発行部数 : 10,000 部

配布先 : 会員（個人、団体）

国立国会図書館

科学館（日本科学未来館、日本科学技術館他）

博物館（国立科学博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館他）

高等学校（東京都立戸山高等学校、千葉県立船橋高等学校、早稲田大学
高等学院他）

関連企業（NPG ネイチャーアジア・パシフィック、株式会社タイロス他）

(4) ウェブサイト、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合の会員及び一般市民を対象に、ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連するニュース、国内外の学会・シンポジウム・研究集会・一般公開イベントや求人・公募等の情報を配信する。メールニュースの内容を一層充実させ、毎月定期号を配信するほか、ウェブサイトによる情報発信及びコンテンツの充実を図り、会員及び一般市民が地球惑星科学関連情報にアクセスしやすい環境を提供する。

3. 地球惑星科学コミュニティーにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、学協会や日本学術会議から提案される重要な課題、及び国及び社会からの諸要請に対応するために、以下の活動を行う。

(1) 学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に2回開催して、地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行う。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行う。

□ 第18回学協会長会議

期日：2019年5月28日（火）12：30～13：30（予定）

場所：幕張メッセ国際会議場（予定）

□ 第19回学協会長会議

期日：2019年10月（予定）

場所：東京大学（東京都文京区）（予定）

（2）地球惑星科学コミュニティの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティの意見集約と、コミュニティへの情報伝達を行う。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティへの周知をサポートする。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催する。

□ 全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

期日：連合大会 会期中

場所：幕張メッセ国際会議場（予定）

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

我が国の地球惑星科学コミュニティを代表して、地球惑星科学の国際的な発展に寄与することを目的に、地球惑星科学に関する国際的な研究協力と交流活動の推進を図る。

（1）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

ヨーロッパのEGU、米国のAGU、ならびにアジアのAOGS、CGU等の国際的な学協会と連携協力し、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの推進等を行う。

開催日	出展大会名	開催場所
2020年5月3日～5月8日	EGU General Assembly 2020	ウィーン（オーストリア）
2020年6月28日～7月4日	AOGS 17th Annual Meeting	ホンチェオン（韓国）
2020年12月7日～11日	AGU 2020 Fall Meeting	サンフランシスコ（アメリカ合衆国）

（2）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習の促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックを

連合の共催事業として行う。

- ・第14回国際地学オリンピック

期日：2020年8月16日～26日

場所：チュニメ（ロシア）およびその周辺

- ・第17回国際地理オリンピック

期日：2020年8月11日～17日

場所：イスタンブール（トルコ）およびその周辺

5. 地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し、地球惑星科学の振興と教育・普及の促進に向け科学的提言を発信する。

（1）複合的自然災害への対応と科学的提言の発信

地球上で起こる自然災害事象の複合化に備え、地球惑星科学の総合的、かつ蓄積された研究成果を社会へ還元することを目的として、風水害、地震、火山、津波などの自然災害などの統合的な対策にむけた科学的提言を行う。

（2）複合的自然災害リテラシーの普及

複合的自然災害に対して、国民の基礎知識を高め、突発的災害によるリスクを最小化することを目指し、自然災害に関する大量の情報の中から必要なものを探し、情報を加工して意思決定するための基礎的な知識や技能（複合的自然災害リテラシー）の普及を支援するための活動を行う。

6. セクションサイエンスボードおよび委員会活動

広く国内外の地球惑星科学関連分野の研究者を対象に、地球惑星科学の推進と学術の推進振興を図ることを目的として、ユニオンサイエンスボード及びセクションサイエンスボード、ならびに各委員会の活動を推進する。

（1）サイエンスボードの活動

宇宙惑星科学セクション

- ・宇宙惑星科学セクションでは、昨年度に引き続き、当該分野の研究の長期的なビジョンと日本の果たすべき役割について、議論を深める。
- ・連合大会において、宇宙惑星科学セクションは半数が国際セッションであり、その多くがAGUとの合同セッションとなった。2020年大会のAGUとの共同開催を意識し、セッションの国際化を強化する方向で努力を続ける。
- ・連合大会において、昨年引き続き、学生優秀発表表を選考して表彰する。PEPS誌、及び

これまで深く関与してきた EPS 誌を支援する。連合の顕彰、主催講演会などに候補者を推薦する。

- ・セクションの活動のために、連合大会期間中にセクションボード会議を行うほか、関連学会の秋季講演会などの機会を利用してセクションボード会議を開催する。

大気水圏科学セクション

- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2020 開催時にセクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催する。
- ・大気水圏科学分野に関係する研究集会にセクションとして共催または協賛し開催を援助する。
- ・水文分野 5 学会合同のレター誌「Hydrological Research Letters」の出版に関わる協議会に参加し、活動を支援する。
- ・今後の宇宙開発体制のあり方に関する「タスクフォース会合・リモートセンシング分科会 (TF)」コミュニティの地球科学研究高度化ワーキンググループの活動に参加し、議論を行う。
- ・セクションのウェブページを更に充実させ、セクションの活動を社会に発信する。

地球人間圏科学セクション

- ・セクション活動の活性化にむけて、地球人間科学セクションにおいて多分野の研究者をセクションボードに迎えることで充実させる。
- ・2020 年ジョイントミーティングにおいてセクションボードミーティングを開催し、学生優秀発表賞選考に関わる議論を行い、表彰活動を行う予定である。
- ・2020 年ジョイントミーティングにおいて AGU ならびに EGU とのジョイントセッションを行い連合と AGU・EGU との協働につなげる。
- ・2020 年ジョイントミーティングに海外の研究者を招聘し研究交流を水死する。
- ・2020 年ジョイントミーティングに開催に向けアブトラクト申請を呼びかけ大会時の地球人間圏科学関連セクションの充実を図る。
- ・2020 年ジョイントミーティングの講演者の旅費・登録料を支援する。
- ・地球人間圏科学セクションのボードメンバーのミーティングを年末におこない、翌年度の活動方針を話し合う機会を設ける。
- ・日本学術会議・地球惑星科学委員の会活動ならびに同委員会のもとにおかれている地球人間圏分科会との連携(シンポジウム、ロードマップ、大型研究計画など)をはかる。
- ・ジオ・ユニオン活動 (IGU 大会、ICA 大会、INQUA 大会、IAG 大会など) との連携を進める。

固体地球科学セクション

- ・代議員改選に合わせて、セクションプレジデント、バイスプレジデント、幹事ならびに固体地球科学セクションボードの改組を行う。
- ・セクションボード改組に伴い、既存フォーカスグループの継続審査を行う。
- ・固体地球科学セクションの代議員とセクションボードの情報共有と意思疎通を促進する。
- ・JpGU-AGU2020 における固体地球科学セクション関連セッションと行事における活動を促進するために、セクション予算に応じて外国人研究者を招聘する。
- ・JpGU-AGU2020 開催期間に、セクションボードミーティングを開催する。
- ・JpGU-AGU2020 開催期間に、セクション内のフォーカスグループのミーティングを開催するとともに、その活動を支援する。
- ・セクションの内部構造を充実させるために、さらなるフォーカスグループ創設を推進する。
- ・固体地球科学セクションのホームページを充実させる。
- ・フォーカスグループが継続的に連合大会で国際セッションを提案し、さらに海外の組織と連携した国際会議を共催することを支援する。このような支援を通して、JpGU2021 における国際セッションの継続的な提案を促進する。
- ・セクションの褒賞制度を充実させるために、連合の顕彰委員会と緊密に連携して新たな褒賞の可能性を検討する。

地球生命科学セクション

- ・連合大会において地球生命科学関連セッション（国際セッション含む）を開催する。
- ・連合大会期間中にサイエンスボードのビジネスミーティングを行う。
- ・連合大会の地球生命科学関連セッションで学生優秀発表賞の審査を行う。
- ・地球生命科学振興の中長期計画の策定を行う。
- ・「夢ロードマップ」の改訂を行う。
- ・地球生命科学セクションの若手メンバーの国際的活動の支援を行う。
- ・PEPS への優れた地球生命科学関連の論文投稿を促進する。
- ・地球生命科学セクションに関するトピックのアウトリーチ活動への派遣を促進する。

(2) 顕彰関連活動

- ・連合大会における「学生優秀発表」の表彰を行う。連合大会における学生優秀発表賞の表彰をセクション単位で実施する。学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、審査用 WEB システムを利用して、学生優秀発表表彰制度の安定的な運営をめざす。
- ・連合フェロー顕彰： 2020 年度フェローを顕彰する。2021 年度フェロー候補者を募集し審査する。
- ・地球惑星科学振興西田賞審査：第4回地球惑星科学振興西田賞受賞候補者の募集と審査を

行う。

- ・日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞） 2020 年連合大会において第 47 回受賞者の表彰を行う。
- ・学生旅費助成制度： 昨年に引き続き、大会参加のための学生旅費助成の審査を行う。

（3）各委員会活動

各委員会では年間を通じて委員会を随時開催するとともに、担当理事を通じて理事会への活動報告を行い、委員会と理事会の意志疎通をはかる。特に今年度は以下の委員会活動を推進する。

総務委員会

公益社団法人の円滑な運営と体制強化のための、諸規則の整備を図る。

財務委員会

- ・中長期的に安定的に日本地球惑星科学連合を運営する上での財務面の課題と対策を検討する。
- ・2020 年度決算書、2021 年度予算書を策定する。

大会運営委員会

- ・連合大会の参加者増を目指し、満足度の高いプログラムや企画の充実にむけた方策を企画検討する。
- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2020 の準備を進める。

情報システム委員会

ORCID について会員にさらに情報を提供しつつ、連合における ORCID 情報、また国内外の ORCID 活用状況をみつつ、ORCID に紐づいた情報を有効活用するための検討と作業を継続する。学術情報管理・流通およびオープンサイエンスに関して、AGU との連携を人的交流を含めて強化しつつ、連合においてオープンサイエンスを促進するための検討、活動を継続する。

グローバル戦略委員会

- ・2020 年 JpGU-AGU ジョイントミーティング(連合大会)における発表の英語化を推進する
- ・同大会にて大会運営委員会と協力して International Mixer Luncheon を開催する。昨年大会に引き続き連携海外組織とミーティングを開催し連携力強化を図る。
- ・台湾の CGU (Chinese Geoscience Union) との MOU を締結すると同時に、連合大会における CGU とのジョイントセッションを開催する。

- ・ EGU・AOGS・AGU 等の連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介をする。
- ・ 発信力強化のため、連合ホームページにおける英語ページのより一層の充実をはかる。またパブリックアナウンスメントがある場合、翻訳し掲載する。

教育検討委員会

- ・ 地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、一般公開プログラムとして、連合大会パブリックセッションおよび一般講演会を開催する。

- ・ パブリックセッション

題目：学校教育で使用されている地球惑星科学教材

期日：5月24日（日）

内容：高等学校の教科書をはじめ、学校教育で使用されている教材について、用語の問題を含めて学術的な正確性を分析する。セッション前半では、地学教育および地理教育のカリキュラムで設定されている単元を基準に、それぞれの分野の専門家から、教育内容と教材についてレビューしていただく。セッション後半では、教科教育の専門家や学校教員から、学校での対応についてレポートしていただく。なお、議論の対象は主に高等学校の地学教育および地理教育とする。特に文部科学省検定済教科書は国民全員が使用するものであり、地球の持続可能性を高める市民を育成するためには、一般市民に開かれた場での議論が必要である。

- ・ 一般講演会

題目：未定

期日：夏休み期間中

内容：教員と一般市民を主な対象とする、気象・地形・治水関係者による、2019年に日本を襲った集中豪雨・台風災害の解説。

- ・ 学校教育／社会教育に関する活動

- ・ 初等・中等学校教育および大学・大学院教育に関わる諸課題の解決に向けて、日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会と連携して活動する。
- ・ 各地で開催される高校地学教育関係者地域情報交換会等への委員の派遣他を通して、2019年度に初めて開催した全国高校地学教育関係者情報交換会で構築されたネットワークを強化する。
- ・ 2019年に東京で開催された地学教育研究集会に続く研究集会の京都での開催に協力する。
- ・ 地球惑星科学教育が十分に行われていない地域の学校・教員への支援のため、地球惑星科学実習帳改訂版CDを作成・配布する。また、インターネット上で公開する。

- ・国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援
 - ・高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習の促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックを連合の共催事業として行う。
 - ・第14回国際地学オリンピック
 - 期日：2020年8月16日～26日
 - 場所：チュニメ（ロシア）およびその周辺
 - 注）国内選抜は、2019年12月15日予選（マークシート）、2020年3月15日～17日、本選（記述式）、2020年3月16日～17日代表選抜（面接等）にて実施済
 - ・第17回国際地理オリンピック
 - 期日：2020年8月11日～17日
 - 場所：イスタンブール（トルコ）およびその周辺
 - 注）国内選抜（国内大会）は、2019年12月16日第1次選抜（マルチメディアテスト）、2020年2月16日第2次選抜（記述式テスト）、2020年3月14日・15日第3次選抜（フィールドワークテスト）にて実施済。
- ・国際的な地球惑星科学教育の普及と交流
 - ・AGI（American Geoscience Institute）が、毎年、世界各地で開催している Earth Science Weekと連携して、第3回アースサイエンスウィーク・ジャパンを開催する。講演会、巡検などを予定している。
- ・その他
 - ・教員免許状更新講習を実施する。
 - ・理数系学会教育問題連絡会に参加して、学校での理数・情報教育の改善に向けた活動を行う。
 - ・教育検討委員会 HP により、理数系学会および連合に加入する各学協会が行っている、教育に関連する様々な活動と教育上の諸問題への対応についての情報を共有する。

広報普及委員会

- ・2020年大会で、パブリックセッション「高校生によるポスター発表」を開催予定
- ・2020年大会で、パブリックセッション「地球・惑星科学トップセミナー」を開催予定、映像を記録して動画配信予定
- ・2020年大会で、中高生向けに「NASA-JAXA ハイパーウォール講演会」を開催し、その宣伝及び運営サポートを行う予定
- ・2020年大会で、スチルカメラマンを雇用して会場の様子を記録・公開予定
- ・2020年大会で、記者会見用ブース及びメディア用作業スペースを作成・設置予定

- ・2020 年大会で、日本地球惑星科学連合の展示ブースを開設予定
- ・2020 年大会で発表される論文の中からハイライト論文を採択予定
- ・2020 年大会の概要及びハイライト論文などのプレスリリースを行う予定
- ・2020 年大会パブリックセッション等用に日本地球惑星科学連合ノベルティグッズを作成予定
- ・2020 年 12 月頃に「日本地球惑星科学連合冬の公開講演会 2020」を開催予定、その映像を記録して動画配信予定
- ・連合ニューズレター誌 JGL を年間 4 号編集・発行予定
- ・2020 年連合大会プログラム日本語版を JGL 春号の一部として掲載・発行予定
- ・2020 年度連合フェロー受賞者記念特集原稿の編集し、JGL 及び連合ウェブに掲載予定
- ・連合メールニュース定期号を年間 12 号、臨時号を年間数号程度、編集・配信予定
- ・連合ウェブサイトの運用予定
- ・連合ウェブサイトを活用した広報・普及事業（公開講演会等の動画配信を含む）を行う予定
- ・連合ウェブサイト英語版を作成・拡充予定
- ・2020 年 8 月ころに広報普及委員会を開催予定
- ・2021 年大会で開催するパブリックセッションの採択に向けた検討をパブリック小委員会で行う。

ジャーナル企画経営委員会

- ・ジャーナルの中長期経営戦略（企画、財政、方針など）及び他誌との協調・発展について、随時委員会を開催して検討する。また、将来的に連合の金銭的補助なしで独立した出版活動を行うための方向性を検討する。

ジャーナル編集委員会

- ・編集長会議と全体編集会議を開催し、論文投稿及び引用を促進するための施策、編集方針や問題点の解決策について検討する。

ダイバーシティ推進委員会

- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2020 （2020 年連合大会）時に委員会を開催予定
- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2020 （2020 年連合大会）でのユニオンセッションの開催と EGU・AGU との連携
- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2020 （2020 年連合大会）でのセミナー（旧パブリックセッションの新形式）開催（予定）
- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2020 （2020 年連合大会）でのキャリアパス支援ブースについて、民間業者との連携も視野に入れた開催（予定）

- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2020（2020 年連合大会）での保育室開室の支援
- ・ キャリアパスアンケートの結果のまとめと報告
- ・ 人材マッチングウェブの整備の検討（通年）
- ・ ハラスメントに関する取り組みについての議論（通年）
- ・ 委員会ウェブサイトの整備（通年）
- ・ 男女共同参画学協会連絡会対応、若手研究者育成 WG の活動（通年）
- ・ 女子中高生夏の学校 2020 への参加（実行委員としても参画し、実験実習、ポスター展示、進路相談などの多様な企画を協賛予定）（おもに 8 月、準備は通年）

顕彰委員会、学生優秀発表賞小委員会

- ・ 日本地球惑星科学連合の顕彰活動に関連する事案を検討し、顕彰制度の規則などの設計ならびに運営に関する議論を行い、理事会へ答申する。
- ・ 顕彰事業の一環として、連合大会における学生旅費助成審査を行う。
- ・ 顕彰委員会内に設けた学生優秀発表賞小委員会により、連合大会における学生優秀発表賞制度を運営する。

フェロー審査委員会

連合大会でのフェロー表彰に向けて、フェローを選考し、理事会に推薦する。

地球惑星科学振興西田賞審査委員会

本賞の審査を隔年で行う。本年度は第 4 回受賞候補者の募集と審査を行う。

日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会

本賞の審査を隔年で行う。本年度は第 47 回受賞者の連合大会での表彰を行う。

2020年度収支予算書

公益目的事業会計

科 目		2019年度予算	2020年度予算書 (除く 科研費)	科研費 EPS+PEPS	2020年度全体予算
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益		2,000	1,000		1,000
	基本財産受取利息	2,000	1,000		1,000
特定資産運用益		2,000	1,000		1,000
	特定資産受取利息	2,000	1,000		1,000
受取会費		12,500,000	11,000,000		11,000,000
	当年度会費	12,500,000	11,000,000		11,000,000
事業収益		155,669,000	173,709,730		173,709,730
学術大会収益		154,821,000	172,979,730		172,979,730
	大会参加料収入	105,869,000	120,603,330		120,603,330
	投稿料収入	19,156,000	20,589,800		20,589,800
	団体展示料収入	22,466,000	27,060,000		27,060,000
	大学インフォメーション収	913,000	660,000		660,000
	書籍展示収入	1,351,000	495,000		495,000
	パンフレットデスク収入	65,000	75,600		75,600
	会議室使用料収入	2,624,000	2,100,000		2,100,000
	懇親会収入	671,000	0		0
	学協会出展料	421,000	396,000		396,000
	その他	1,285,000	1,000,000		1,000,000
刊行事業収益		848,000	730,000		730,000
	JGL広告収入	848,000	730,000		730,000
受取補助金			0	9,000,000	9,000,000
	科学研究補助金		0	9,000,000	9,000,000
受取寄付金		150,000	5,500,000		5,500,000
	地球惑星科学振興西田賞		5,000,000		5,000,000
	会員寄附	150,000	500,000		500,000
雑収益		424,000	241,000		241,000
	受取利息	18,000	1,000		1,000
	その他	406,000	240,000		240,000
指定正味財産より		1,300,000	700,000		700,000
経常収益計		170,047,000	191,152,730	9,000,000	200,152,730
(2) 経常費用					
事業費		161,978,000	194,414,626	9,000,000	203,414,626
給料手当		20,500,000	25,400,000		25,400,000
法定福利費		3,000,000	3,100,000		3,100,000
退職給付費用		360,000	480,000		480,000
臨時雇用資金		5,831,000	5,952,150	100,000	6,052,150
	ホームページ作成		0		0
	その他アルバイト	5,831,000	5,952,150	100,000	6,052,150
会議費		4,712,000	5,453,624	180,000	5,633,624
旅費交通費		16,722,000	22,513,379	1,930,000	24,443,379
	通勤費	1,336,000	2,000,000		2,000,000
	交通費	15,386,000	20,513,379	1,930,000	22,443,379
通信運搬費		3,852,000	3,630,068	20,000	3,650,068
減価償却費		7,491,000	8,000,000		8,000,000
消耗什器備品		100,000	100,000		100,000
消耗品		3,301,000	3,255,017	80,000	3,335,017
保守費		6,507,000	6,733,000	550,000	7,283,000
印刷製本費		8,449,000	6,813,950	2,400,000	9,213,950
	プログラム編集費		1,894,250		1,894,250
	プログラム印刷製本費	2,853,000	0		0
	ポスター印刷費	214,000	134,750		134,750
	JGL印刷費	2,651,000	4,076,200		4,076,200
	ジャーナル印刷費	2,000,000	0	2,400,000	2,400,000
	その他	731,000	708,750		708,750
図書費		50,000	50,000		50,000
出版費		701,000	220,000		220,000
賃借料		57,931,000	65,608,738	120,000	65,728,738
	事務所賃借料	3,103,000	3,170,000	120,000	3,290,000
	事務機賃借料	302,000	547,800		547,800
	大会会場費	32,314,000	37,065,388		37,065,388
	設備維持費借料・設置費	21,904,000	24,279,220		24,279,220
	その他	308,000	546,330		546,330
		0	0		0
諸謝金		1,368,000	368,000	1,500,000	1,868,000
租税公課		3,550,000	3,500,000		3,500,000
支払手数料		3,558,000	3,768,000	10,000	3,778,000
支払奨助金		1,050,000	731,000		731,000
委託費		11,692,000	21,397,700	710,000	22,107,700
	システム関係	4,212,000			0
	その他	7,480,000	21,397,700	710,000	22,107,700
表彰費		0	5,000,000		5,000,000
雑費		72,000	300,000		300,000
保険料		1,181,000	1,440,000		1,440,000
広告宣伝費		0	600,000	1,400,000	2,000,000
管理費		8,211,000	9,177,000		9,177,000
給料手当		3,200,000	3,900,000		3,900,000
法定福利費		300,000	300,000		300,000
退職給付費用		0	0		0
会議費		20,000	21,000		21,000
旅費交通費		1,270,000	1,290,000		1,290,000
	通勤費	170,000	170,000		170,000
	交通費	1,100,000	1,120,000		1,120,000
通信運搬費		224,000	215,000		215,000
消耗什器備品		100,000	100,000		100,000
消耗品費		269,000	319,000		319,000
					0
賃借料		800,000	900,000		900,000
	事務所賃借料	750,000	800,000		800,000
	事務機賃借料	50,000	100,000		100,000
	その他	0	0		0
諸謝金		1,296,000	1,350,000		1,350,000
租税公課		202,000	252,000		252,000
保守費		100,000	100,000		100,000
支払手数料		350,000	350,000		350,000
雑費		80,000	80,000		80,000
経常費用計		170,189,000	203,591,626	9,000,000	212,591,626
当期経常増減額		-142,000	-12,438,896		-12,438,896
定期大会参加促進事業費立		4,000,000	4,000,000		4,000,000
内閣府提出 収支差額		3,858,000	-8,438,896		-8,438,896

日本地球惑星科学連合 地球惑星科学者の行動規範

日本地球惑星科学連合の会員は、地球惑星環境及び社会における使命と責任を自覚して、法令を遵守し、良識に基づき真摯かつ誠実な態度で活動に取り組むことが求められる。会員は、教育研究活動の遂行に当たり、行動や判断がこれらの使命や責任に即したものであるかを判断し得るよう、以下の行動規範を定めるものとする。

I. 研究者の責務と公正な研究の推進

1. 会員は、自らの専門知識と能力の維持向上に努め、社会からの期待と信託を自覚して、教育研究活動に取り組む。
2. 会員は、研究の実施と研究費の使用等にあたっては、法令や関連規則を遵守する。
3. 会員は、研究データの厳正な取り扱いと記録保全を徹底し、捏造、改竄、盗用などの不正行為を行わない。

II. 健全かつ持続的な研究環境の構築

1. 会員は、健全かつ持続的な科学研究の振興に努め、研究環境の向上と不正行為防止の教育啓発に取り組む。
2. 会員は、多様な価値観・個性・プライバシーを尊重し、人格を軽視するハラスメント行為を行わず、見過ごさない。
3. 会員は、人種や国籍、性別、年齢など属性にとらわれることなく、等しく研究参画の機会を広げ、また多様な価値感を尊重する。

III. 研究成果と技術の発信

1. 会員は、研究成果や技術を論文等を通じて積極的に公表し、功績の認知を得ると同時に成果に対する責任を持つ。
2. 会員は、研究活動により生産されたデータの価値を認識し、人類共有の財産として、将来にわたり確実に保存・活用する。
3. 会員は、研究開発成果の最大化に向けたデータ公開に務め、またデータ生産者の科学功績を評価する。

IV. 地球惑星科学の正しい知識の普及

1. 会員は、自らが携わる研究の意義と役割を社会に説明し、市民との対話に参画して、社会と科学者との意思疎通を図る。
2. 会員は、社会の問題解決に資するために、客観的で科学的な根拠に基づく公正な助言を行う。科学的知見の不確実性と見解の多様性についても適切に説明する。
3. 会員は、地球惑星科学と防災・環境に関する社会のリテラシー向上に向けた普及啓発活動を推進し、次世代を支える人材育成を図る。

V. 自然と科学・人間社会との信頼構築

1. 会員は、専門的知識と技術を活用し、自然災害の予防と地球環境の保全と改善に努める。
2. 会員は、研究成果や技術が人間、社会、環境に起こし得る影響を自覚し、また、意図に反して軍事に悪用される可能性など、成果利用の両義性を認識する。
3. 会員は、研究成果の発表や見解の提示において、個人と組織、組織間の利益相反の回避に務め、常に公共性を優先する。

*1 「FAIR」は、2016年頃から特に欧州のオープンデータ・オープンサイエンス関係で唱えられている標語であり、Findable（見つけられる）、Accessible（アクセスできる）、Interoperable（相互運用できる）、Reusable（再利用できる）の頭文字を取って、データ共有のあるべき姿を短くまとめたものです。

公益社団法人 日本地球惑星科学連合倫理規則

(目的)

第 1 条 この規則は、日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）の会員に日本地球惑星科学連合の行動規範（以下「行動規範」という。）に違反する不正行為に対処し、行動規範の遵守を促すための委員会の設置及び不正行為に対する措置等について定める。

(定義等)

第 2 条 この規則において「不正行為」とは、次に掲げる行為をいう。

- (1) 研究結果の捏造、改ざん又は盗用、及びその隠蔽・立証妨害行為
- (2) 研究資金等の不正使用
- (3) 法令に違反する行為
- (4) 違法な人格侵害及びハラスメント行為

2 前項の (1) 及び (2) については、連合が別に定める行動規範に反し、故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる場合とする。

(倫理委員会の設置)

第 3 条 連合に、第 1 条の目的のため倫理委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

2 委員会は、会長が委嘱する 3 名以上の委員をもって構成し、委員の互選により委員長を選任する。

3 委員会委員長は、理事会の承認を経て、関係者（会員以外を含む）の出席を求めるとができる。

4 その他、委員会の運営は連合法人運営規則の定めによる。

(調査小委員会)

第 4 条 委員会は、第 9 条で要請された場合、直ちに調査小委員会（以下「小委員会」という。）を設置しなければならない。

2 小委員会委員長は、委員会の承認を得て、関係者（会員以外を含む）の出席を求めることができる。

3 小委員会委員長及び小委員会委員は、委員長の求めに応じ、委員会に出席することができる。

4 小委員会は、会員の不正行為に関する事実関係の調査に基づく対処方法に関して検討し、委員会に報告する。

5 小委員会の任期は、前項の報告が完了した時をもって終了とする。

(守秘義務)

第 5 条 理事、委員会委員、小委員会委員、第 3 条第 3 項に規定する委員会出席者、及び第 4 条第 3 項に規定する小委員会出席者は、本規則に基づく調査及び審理により知ることのできた秘密を漏らしてはならない。

(不正行為の疑いの申立て)

第 6 条 会員に不正行為の疑いが存在すると思料する者は、何人も、自己の氏名を明らかに

したうえ、書面、ファクシミリ、電話、電子メール又は面談等により、第 19 条に基づいて設置される窓口に応立てを行うことができる。

2 書面及びファクシミリの場合の申立ては、別紙様式に定める申立書による。書面及びファクシミリ以外による申立ての場合も、同様式の申立書は提出するものとする。

(申立ての受理)

第 7 条 窓口の責任者は、前条による申立てがあった場合には、会長および委員会委員長に、その旨を報告するものとする。

2 窓口の責任者は、申立てが郵便等により行われた場合など当該申立てが受理されたかどうかについて申立者本人が知り得ない方法により申立てが行われた場合には、受理後遅滞なく申立者に受理した旨を通知するものとする。

3 窓口の責任者は、匿名による申立てについて、必要と認める場合には、当該申立ての内容等を委員会委員長と協議した後、前条による申立てがあった場合に準じて受理することができる。ただし、調査結果が出る前に申立者が判明した場合は、前項の通知を行う。

4 委員会は、報道等により不正行為の疑いが指摘された場合又はインターネット上で第 6 条 1 項に定める不正を行ったとされる会員の氏名と不正行為の内容が掲載されていることが確認され、目的に照らし必要性が認められる場合には、前項本文の規定を準用して、申立てを受理したものとしてその後の手続を進めることができる。

(予備調査)

第 8 条 前条による申立てを受理をした場合には、委員会は、速やかに予備調査を実施しなければならない。

2 委員会は、予備調査を実施した場合には、結果を理事会に報告するとともに、結果の概要を申立者及び被申立者に通知しなければならない。

(予備調査の報告における不正行為の存在)

第 9 条 理事会は、前条の予備調査の報告に基づき、不正行為が存在すると思料する場合には、委員会に小委員会の設置を請求する。

2 理事会は、不正行為が存在しないと思料した場合には、当該結果について申立者及び被申立者に通知するものとする。

(調査)

第 10 条 小委員会における調査にあたっては、次の各号に掲げる事項を行うことができる。

- (1) 関係者からの聴取
- (2) 関係資料、実験試料等の調査
- (3) その他調査に合理的に必要な事項

2 会員である関係者は、小委員会の調査にあたっては、誠実に協力しなければならない。小委員会から資料の提出を求められた場合には、これに応じなければならない。

3 小委員会はすみやかに調査を行い、その結果を委員会に報告する。

(審理及び裁定)

第 11 条 委員会は、前項の報告に基づき、不正行為の有無及び程度について審理し裁定

を行って、その結果を理事会に報告する。

2 裁定を行うにあたっては、対象会員に書面又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。

3 委員会は、不正行為の存在が確認された場合は、次の各号に掲げる措置を理事会に提案する。但し、不正行為の程度が軽微であるなどその必要性がない場合はこの限りではない。

- (1) 定款第 13条に基づく除名
- (2) 定款第 20条に基づく役員の解任
- (3) セクションプレジデント、代議員の解任
- (4) 会員の資格停止
- (5) 過去に遡っての表彰の取り消し
- (6) 連合大会への参加・発表の禁止、学会誌PEPSへの投稿の禁止
- (7) その他不正行為の排除のために必要な措置

(理事会における措置等)

第 12 条 理事会は、前項の提案に基づき、定款所定の必要な手続きを取る。ただし、前条第 3 項第 3 号については、現在理事数の3分の2以上の議決をもってこれを行うことができる。

2 裁定と措置の概要は、個人情報又は知的財産の保護等不開示に合理的な理由がある部分を除き、原則として公表する。公表事項について対象会員の意見がある場合には、その意見もあわせて文書により公表するものとする。

3 理事会は、不正行為が存在しなかったことが確認された場合は、対象会員の名誉回復のために、十分な措置をとらなければならない。

4 連合は、前条第 3 項各号の措置が取られる前に、対象会員が会員資格を喪失した場合であっても、理事会の決議により、必要な範囲で、事案の概要につき公表することができる。

(資格停止に伴う権利の喪失)

第 13 条 会員資格を停止した会員は、連合の会員の有する権利行使のほか、連合大会への参加・発表の権利を喪失する。

(資格停止措置の期間)

第 14 条 理事会は、前条第1項に基づき、資格停止の措置を取る場合には、その期間を定めるものとする。

2 不正行為が刑事事件として立件された場合の資格停止の措置については、その期間満了前といえども不起訴処分又は無罪の宣告（確定を要しない）により直ちに失効するものとする。有罪が確定した場合には、理事会は、資格停止の措置の他に改めて必要な措置をとることができるものとし、その所要の手続きが完了するまでは資格停止期間は継続するものとする。

(異議申し立て)

第 15 条 被申立者は、決定に対する異議を文書で理由を付し会長に申し出ることができる。

2 異議申し立ては通知後15日以内とする。

(再審理)

第 16 条 異議申し立てがあった場合は、会長は委員会に対して再調査を命じることができる。

- 2 委員会は、小委員会を設置し審議を命じる。
- 2 被申立者は小委員会にて意見を述べることができる。
- 3 小委員会は、被申し立て者の異議について審議し、処分の必要性の有無とその種類について委員会に報告し、委員会はその審議結果を会長に勧告する。
- 4 会長は、その勧告に基づいた最終決定を理事会の承認を得て行い、速やかに申立者及び被申立者に通知する。

（申立者及び調査協力者の保護）

第 16 条 不正行為に関する申立者及び調査協力者に対しては、申立てや情報提供を理由とする不利益を受けないように十分な配慮を行う。

（関係機関との連絡協議）

第 17 条 委員会及び小委員会は、必要に応じて、外部の機関と情報交換等の連絡協議を行うことができる。

（啓発活動）

第 18 条 委員会は、行動規範の遵守を促すために、会員の倫理教育を含む啓発活動を行うものとする。

（窓口の設置）

第 19 条 委員会は、不正行為に関する申立てや情報提供及びこの規則にかかわる相談・照会等に対応するための窓口を、事務局に設置しなければならない。

2 窓口の責任者は、事務局長とする。

（改廃手続）

第 20 条 この規定の改廃は、理事会の議を経なければならない。

附則

1. この規則は、2020年 3 月 24 日から施行する。

公益社団法人 日本地球惑星科学連合倫理委員会規則

(趣旨)

第1条 この細則は、日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）の倫理規則に基づく倫理委員会の運営に関する事項を定めるものとする。

(倫理委員会の構成員)

第2条 倫理委員会は常設とし、メンバーは会長、副会長、顧問弁護士とする。

2 委員の任期は、理事会の任期とする。

(調査小委員会の構成員)

第3条 調査小委員会は、倫理委員会メンバーから1名以上を含む委員により構成する。

2 不正申し立て内容が研究の専門性に関する場合は、セクションプレジデント、セクション監事、及び当該分野の専門性を有する正会員を加える。

3 不正申し立て内容が研究の専門性によらない場合（法令違反、研究費不正使用、ハラスメント行為等）には、倫理委員会が調査小委員会を兼ねることができる。

(申し立て窓口)

第4条 面談により不正申し立てを受ける場合は、窓口の責任者たる事務局長の判断により、倫理委員会メンバー又は総務委員会委員を同席させることができる。

(再審理)

第5条 異議申し立てを審議する調査小委員会の設置にあたっては、当該の調査を行った調査小委員会のメンバーに新たな委員を加えることができる。

貸借対照表

令和 2年 3月31日現在

公益目的事業会計

(単位:円)

科 目				当年度	前年度	増 減
I 資産の部						
1. 流動資産						
現金	預金			81,881,805	69,278,627	12,603,178
未成事業収支	出金			28,341	31,784	-3,443
未成事業収支	入金			16,547,065	16,503,025	44,040
前払金	費用			4,861,453	2,096,480	2,764,973
仮払金	税金			5,845,206	5,845,206	0
未払消費税	等			306,153	780	305,373
				0	505,200	-505,200
流動資産合計				109,470,023	94,261,102	15,208,921
2. 固定資産						
(1) 基本財産						
定期預金				5,000,000	5,000,000	0
基本財産合計				5,000,000	5,000,000	0
(2) 特定資産						
30周年記念行事準備資金				1,700,000	0	1,700,000
定期大会参加促進事業積立資金				4,000,000	8,000,000	-4,000,000
地球惑星科学振興西田賞準備資金				15,000,000	10,000,000	5,000,000
大会インセンティブ資金				600,000	1,900,000	-1,300,000
特定資産合計				21,300,000	19,900,000	1,400,000
(3) その他固定資産						
什器備品				145,201	43,471	101,730
ソフトウェア				19,808,392	22,941,628	-3,133,236
保証金				483,090	483,090	0
その他固定資産合計				20,436,683	23,468,189	-3,031,506
固定資産合計				46,736,683	48,368,189	-1,631,506
資産合計				156,206,706	142,629,291	13,577,415
II 負債の部						
1. 流動負債						
未払金				3,340,323	8,339,094	-4,998,771
未成事業収支	入金			2,761,384	2,538,877	222,507
未成事業収支	受入金			40,863,350	39,951,910	911,440
前払金	費用			6,366,500	6,034,500	332,000
仮払金	税金			313,103	447,691	-134,588
未払消費税	等			1,978	1,000	978
				2,127,800	0	2,127,800
流動負債合計				55,774,438	57,313,072	-1,538,634
負債合計				55,774,438	57,313,072	-1,538,634
III 正味財産の部						
1. 指定正味財産						
指定正味財産合計				15,600,000	11,900,000	3,700,000
(うち特定資産への充当額)				(15,600,000)	(11,900,000)	(3,700,000)
2. 一般正味財産						
(うち基本財産への充当額)				84,832,268	73,416,219	11,416,049
(うち特定資産への充当額)				(5,000,000)	(5,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)				(5,700,000)	(8,900,000)	(3,200,000)
正味財産合計				100,432,268	85,316,219	15,116,049
負債及び正味財産合計				156,206,706	142,629,291	13,577,415

正味財産増減計算書

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

公益目的事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基 本 財 産 運 用 益	500	694	-194
基 本 財 産 受 取 利 息	500	694	-194
特 定 資 産 運 用 益	1,800	2,307	-507
特 定 資 産 受 取 利 息	1,800	2,307	-507
受 取 会 費	11,360,000	12,810,160	-1,450,160
当 年 度 会 費	11,360,000	12,810,160	-1,450,160
事 業 収 益	162,566,410	152,727,850	9,838,560
学 術 大 会 事 業 収 益	161,734,550	152,380,350	9,354,200
大 会 参 加 料 収 入	112,413,960	102,842,920	9,571,040
投 稿 料 収 入	19,242,360	19,180,800	61,560
団 体 展 示 料 収 入	22,928,040	23,113,680	-185,640
大学インフォメーションパネル収入	756,000	912,600	-156,600
書 籍 展 示 料 収 入	1,242,000	1,351,080	-109,080
パンフレットデスク収入	75,600	64,800	10,800
会 議 室 使 用 料 収 入	2,165,940	2,623,860	-457,920
懇 親 会 収 入	630,000	671,320	-41,320
学 協 会 出 展 料	399,960	421,200	-21,240
そ の 他	1,880,690	1,198,090	682,600
刊 行 事 業 収 益	831,860	347,500	484,360
J G L 広 告 料 収 入	831,860	347,500	484,360
受 取 補 助 金 等	7,400,000	628,696	6,771,304
25年度科学研究費補助金研究成果公開促進費	0	628,696	-628,696
31年度科学研究費補助金研究成果公開促進費	7,400,000	0	7,400,000
受 取 寄 付 金	591,000	5,937,600	-5,346,600
地 球 惑 星 科 学 振 興 西 田 賞	0	5,000,000	-5,000,000
会 員 寄 付	591,000	937,600	-346,600
雑 収 益	318,905	30,660	288,245
受 取 利 息	635	443	192
そ の 他	318,270	30,217	288,053
大 会 イ ン セ ン ティ ブ 資 金 受 入 金	1,300,000	0	1,300,000
経常収益計	183,538,615	172,137,967	11,400,648
(2) 経常費用			
事 業 費	164,211,156	171,774,854	-7,563,698
給 料 手 当	23,160,000	25,659,873	-2,499,873
法 定 福 利 費	3,440,326	3,668,154	-227,828
臨 時 雇 賃 金	4,240,924	3,634,954	605,970
ホ ー ム ペ ー ジ 作 成 費	0	175,000	-175,000
そ の 他 ア ル バ イ ト	4,240,924	3,426,954	813,970
ジ ャ ー ナ ル 担 当	0	33,000	-33,000
退 職 慰 労 金	0	752,000	-752,000
退 職 給 付 費 用	270,000	180,000	90,000
会 議 費	5,024,854	6,633,579	-1,608,725
旅 費 交 通 費	14,106,106	14,306,181	-200,075
通 勤 費	1,511,021	1,704,994	-193,973
交 通 費	12,595,085	12,601,187	-6,102
通 信 運 搬 費	3,028,818	3,482,248	-453,430
減 価 償 却 費	7,554,006	6,623,805	930,201
消 耗 品 費	3,542,222	2,939,932	602,290
保 守 費	6,258,694	6,290,407	-31,713
印 刷 製 本 費	7,185,402	14,374,123	-7,188,721
プ ロ グ ラ ム 編 集 費	475,200	475,200	0
プ ロ グ ラ ム 印 刷 製 本 費	2,549,340	2,496,420	52,920
ポ ス タ ー 製 作 費	96,259	205,413	-109,154
J G L 印 刷 費	1,787,828	3,359,146	-1,571,318
ジ ャ ー ナ ル 印 刷	712,787	6,969,736	-6,256,949

そ の 他	1,563,988	868,208	695,780
出 展 費	202,834	242,507	-39,673
賃 借 料	60,367,722	57,791,646	2,576,076
事 務 所 賃 借 料	2,837,193	3,041,568	-204,375
事 務 機 賃 借 料	346,464	336,960	9,504
会 場 賃 借 料	34,656,586	32,313,802	2,342,784
設 備 機 材 賃 借 料	22,076,836	21,903,567	173,269
そ の 他	450,643	195,749	254,894
諸 謝 金	1,842,215	1,778,000	64,215
租 税 公 課	3,860,500	3,290,570	569,930
支 払 手 数 料	4,568,755	4,835,536	-266,781
支 払 賛 助 金	1,270,000	918,000	352,000
委 託 費	10,264,469	8,610,849	1,653,620
シ ス テ ム 関 連 費	4,430,400	3,433,320	997,080
そ の 他	5,834,069	5,177,529	656,540
雑 費	649,555	525,330	124,225
保 険 料	1,228,990	168,580	1,060,410
広 告 宣 伝 費	444,764	68,580	376,184
表 彰 費	0	5,000,000	-5,000,000
30 周 年 記 念 事 業	1,700,000	0	1,700,000
管 理 費	7,911,410	8,485,332	-573,922
給 料 手 当	3,834,577	4,326,983	-492,406
会 議 費	15,840	3,720	12,120
旅 費 交 通 費	1,258,712	1,236,636	22,076
通 勤 費	169,200	205,452	-36,252
交 通 費	1,089,512	1,031,184	58,328
通 信 運 搬 費	199,537	94,858	104,679
消 耗 品 費	112,414	143,547	-31,133
賃 借 料	778,877	762,816	16,061
事 務 所 賃 借 料	685,133	678,576	6,557
事 務 機 賃 借 料	93,744	84,240	9,504
諸 謝 金	1,263,600	1,285,200	-21,600
租 税 公 課	600	176,830	-176,230
支 払 手 数 料	430,736	416,656	14,080
委 託 費	0	10,800	-10,800
そ の 他	0	10,800	-10,800
雑 費	16,517	27,286	-10,769
経常費用計	172,122,566	180,260,186	-8,137,620
評価損益等調整前当期経常増減額	11,416,049	-8,122,219	19,538,268
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	11,416,049	-8,122,219	19,538,268
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	11,416,049	-8,122,219	19,538,268
一般正味財産期首残高	73,416,219	81,538,438	-8,122,219
一般正味財産期末残高	84,832,268	73,416,219	11,416,049
II 指定正味財産増減の部			
受 取 補 助 金 等	7,400,000	0	7,400,000
受 取 寄 付 金	5,000,000	6,900,000	-1,900,000
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	-8,700,000	-5,628,696	-3,071,304
当期指定正味財産増減額	3,700,000	1,271,304	2,428,696
指定正味財産期首残高	11,900,000	10,628,696	1,271,304
指定正味財産期末残高	15,600,000	11,900,000	3,700,000
III 正味財産期末残高	100,432,268	85,316,219	15,116,049

正味財産増減計算書内訳表

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

(単位 : 円)

科 目	公益目的事業会計		合 計
	学術振興事業	法人会計	
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基 本 財 産 運 用 益	0	500	500
基 本 財 産 受 取 利 息	0	500	500
特 定 資 産 運 用 益	1,800	0	1,800
特 定 資 産 受 取 利 息	1,800	0	1,800
受 取 会 費	5,680,000	5,680,000	11,360,000
当 年 度 会 費	5,680,000	5,680,000	11,360,000
事 業 収 益	151,325,014	11,241,396	162,566,410
学 術 大 会 事 業 収 益	150,493,154	11,241,396	161,734,550
大 会 参 加 料 収 入	101,172,564	11,241,396	112,413,960
投 稿 料 収 入	19,242,360	0	19,242,360
団 体 展 示 料 収 入	22,928,040	0	22,928,040
大学インフォメーションパネル収入	756,000	0	756,000
書 籍 展 示 料 収 入	1,242,000	0	1,242,000
パンフレットデスク収入	75,600	0	75,600
会 議 室 使 用 料 収 入	2,165,940	0	2,165,940
懇 親 会 収 入	630,000	0	630,000
学 協 会 出 展 料	399,960	0	399,960
そ の 他	1,880,690	0	1,880,690
刊 行 事 業 収 益	831,860	0	831,860
J G L 広 告 料 収 入	831,860	0	831,860
受 取 補 助 金 等	7,400,000	0	7,400,000
31年度科学研究費補助金研究成果公開促進費	7,400,000	0	7,400,000
受 取 寄 付 金	591,000	0	591,000
会 員 寄 付	591,000	0	591,000
雑 収 益	318,905	0	318,905
受 取 利 息	635	0	635
そ の 他	318,270	0	318,270
大 会 インセンティブ 資 金 受 入 金	1,300,000	0	1,300,000
経常収益計	166,616,719	16,921,896	183,538,615

(2) 経常費用			
事業費	164,211,156		164,211,156
給料手当	23,160,000		23,160,000
法定福利費	3,440,326		3,440,326
臨時雇賃金	4,240,924		4,240,924
その他アルバイト	4,240,924		4,240,924
退職給付費用	270,000		270,000
会議費	5,024,854		5,024,854
旅費交通費	14,106,106		14,106,106
通勤費	1,511,021		1,511,021
交通費	12,595,085		12,595,085
通信運搬費	3,028,818		3,028,818
減価償却費	7,554,006		7,554,006
消耗品費	3,542,222		3,542,222
保守費	6,258,694		6,258,694
印刷製本費	7,185,402		7,185,402
プログラム編集費	475,200		475,200
プログラム印刷製本費	2,549,340		2,549,340
ポスター製作費	96,259		96,259
J G L 印刷費	1,787,828		1,787,828
ジャーナル印刷	712,787		712,787
その他	1,563,988		1,563,988
出展費	202,834		202,834
賃借料	60,367,722		60,367,722
事務所賃借料	2,837,193		2,837,193
事務機賃借料	346,464		346,464
会場賃借料	34,656,586		34,656,586
設備機材賃借料	22,076,836		22,076,836
その他	450,643		450,643
諸謝金	1,842,215		1,842,215
租税公課	3,860,500		3,860,500
支払手数料	4,568,755		4,568,755
支払賛助金	1,270,000		1,270,000
委託費	10,264,469		10,264,469
システム関連費	4,430,400		4,430,400
その他	5,834,069		5,834,069
雑費	649,555		649,555
保険料	1,228,990		1,228,990
広告宣伝費	444,764		444,764
30周年記念事業	1,700,000		1,700,000
管理費		7,911,410	7,911,410
給料手当		3,834,577	3,834,577
会議費		15,840	15,840
旅費交通費		1,258,712	1,258,712
通勤費		169,200	169,200
交通費		1,089,512	1,089,512
通信運搬費		199,537	199,537
消耗品費		112,414	112,414
賃借料		778,877	778,877
事務所賃借料		685,133	685,133
事務機賃借料		93,744	93,744
諸謝金		1,263,600	1,263,600

租 税 公 課		600	600
支 払 手 数 料		430,736	430,736
雑 費		16,517	16,517
経常費用計	164,211,156	7,911,410	172,122,566
評価損益等調整前当期経常増減額	2,405,563	9,010,486	11,416,049
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額			11,416,049
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額			11,416,049
当期一般正味財産増減額			11,416,049
一般正味財産期首残高			73,416,219
一般正味財産期末残高			84,832,268
II 指定正味財産増減の部			
受 取 補 助 金 等	0		7,400,000
受 取 寄 付 金	0		5,000,000
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	0		-8,700,000
当期指定正味財産増減額	0		3,700,000
指定正味財産期首残高	0		11,900,000
指定正味財産期末残高	0		15,600,000
III 正味財産期末残高	0		100,432,268

財産目録

令和 2年 3月31日現在

公益目的事業会計

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	274,462
	預金	当座預金		1,021,163
		郵貯振替口座		1,021,163
		普通預金	運転資金として	76,586,180
		三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	55,821,712
		りそな銀行本郷		3,794
		ゆうちょ銀行		29,300
		みずほ銀行本郷支店	運転資金として	8,193,311
		みずほ銀行本郷支店	運転資金として	17,873
		千葉銀行東京営業部	運転資金として	11,496,957
		三菱UFJ銀行本郷支店科研費口座		597,202
		地球惑星科学振興 西田賞		2,333
		三井住友銀行		423,698
		定期預金		4,000,000
		三菱UFJ銀行本郷支店		4,000,000
		未収金		コピー使用料
	未成事業支出金			16,547,065
	学術振興事業		学術振興事業費用の前払い分	16,547,065
	預け金		PEPS スプリング	4,861,453
	前払費用			5,845,206
		事務所賃借料の前払い分	282,742	
		2021年横浜大会 予約金	5,562,464	
仮払金			306,153	
その他		返金待ち経費等	306,153	
流動資産合計				109,470,023
(固定資産)	基本財産			
	特定資産	定期預金		5,000,000
		定期預金(一般)	公益目的保有財産である	5,000,000
		定期大会参加促進事業積立金		4,000,000
		地球惑星科学振興西田賞準備資金		15,000,000
		大会インセンティブ資金		600,000
	その他固定資産	30周年記念事業準備資金		1,700,000
		什器備品	公益目的保有財産である	145,201
		ソフトウェア	公益目的保有財産である	19,808,392
		保証金		483,090
	学会センタービル	事務所の保証金	483,090	
	固定資産合計			
資産合計				156,206,706
(流動負債)	未払金		経費支払いの未払い	3,340,323
	未払費用			2,761,384
	労働保険料		雇用保険料・労災保険料	8,856
	給料手当		給料の未払い分	2,276,624
	通勤手当		通勤費の未払い分	356,608
	健・厚保険料		健康保険・厚生年金保険料の未払	119,296
	未成事業受入金			40,863,350

	学術振興事業		学術振興事業収入の前受分	40,863,350
	前受会費		会費収入の前受分	6,366,500
	預り金			313,103
	源泉徴収税		給与源泉・報酬源泉	174,869
	社会保険料			58,934
	その他			79,300
	仮受金			1,978
	未払消費税等			2,127,800
流動負債合計				55,774,438
負債合計				55,774,438
正味財産				100,432,268

財務諸表に対する注記及び附属明細書

令和2年3月31日現在

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）
を採用している。

1．継続事業の前提に関する注記

該当なし

2．重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当なし

(3) 固定資産の減価償却の方法

什器備品 3年間の均等償却。
ソフトウェア 定額法、

(4) 引当金の計上基準

該当なし

(5) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

該当なし

(6) 消費税等の会計処理

税込方式によっている

3．会計方針の変更

該当なし

4．基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)				
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定 期 預 金	5,000,000	0	0	5,000,000
基本財産計	5,000,000	0	0	5,000,000
特定資産				
30周年記念事業準備資金	0	1,700,000	0	1,700,000
定期大会参加促進事業積立金	8,000,000	0	4,000,000	4,000,000
地球惑星科学振興西田賞	10,000,000	5,000,000	0	15,000,000
大会インセンティブ資金	1,900,000	0	1,300,000	600,000
特定資産資産計	19,900,000	6,700,000	5,300,000	21,300,000
合 計	24,900,000	6,700,000	5,300,000	26,300,000

5．基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)				
科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	うち一般正味財産からの充当額	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定 期 預 金	5,000,000	(0)	(5,000,000)	(0)
基本財産計	5,000,000	(0)	(5,000,000)	(0)
特定資産				
30周年記念事業準備資金	1,700,000	(0)	(1,700,000)	(0)
定期大会参加促進事業積立金	4,000,000	(4,000,000)	(0)	(0)
地球惑星科学振興西田賞	15,000,000	(15,000,000)	(0)	(0)
大会インセンティブ資金	600,000	(600,000)	(0)	(0)
特定資産計	21,300,000	(19,600,000)	(1,700,000)	(0)
合 計	26,300,000	(19,600,000)	(6,700,000)	(0)

6 . 担保に供している資産
該当なし

7 . 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取 得 価 額	減価償却累計	当 期 末 残 高
什 器 備 品	1,478,665	1,333,464	145,201
ソ フ ト ウ エ ア	59,560,880	39,752,488	19,808,392
合 計	61,039,545	41,085,952	19,953,593

8 . 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
該当なし

9 . 保証債務(債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。)等の偶発債務
該当なし

1 0 . 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当なし

1 1 . 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	借対照上の記載区
科学研究費補助金	日本学術振興会	0	7,400,000	7,400,000	0	指定正味財産
	合計	0	7,400,000	7,400,000	0	

1 2 . 基金及び代替基金の増減額及びその残高
該当なし

1 3 . 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

平成31年度科学研究費補助金	7,400,000
大会インセンティブ資金	1,300,000
合計	8,700,000

1 4 . 関連当事者との取引の内容
該当なし

1 5 . キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引
該当なし

1 6 . 重要な後発事象
該当なし

17 . その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

附属明細書

1.基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表に対する注記5.に記載
しており、内容の記載を省略する

2.引当金の明細

該当なし

監査報告書

令和 2 年 6 月 18 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）川 幡 穂 高 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監 事 鈴 木 善 和



私監事は、平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 8 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

(1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。

(2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

(1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 8 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。

(2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。

(3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監査報告書

令和 2 年 6 月 18 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）川 幡 穂 高 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監 事 氷 見 山 幸 夫



私監事は、平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 8 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 8 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監査報告書

令和2年6月18日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）川 幡 穂 高 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監 事 加 藤 照 之

私監事は、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合第8期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

(1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。

(2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

(1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第8期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。

(2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。

(3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

日本地球惑星科学連合 定款変更（任意退会の制限）について

（会員の資格喪失）

第 10 条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。
- (2) 成年被後見人又は被保佐人になったとき。
- (3) 死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は会員である団体が解散したとき。
- (4) 2 年以上会費を滞納したとき。
- (5) 除名されたとき。
- (6) 総社員の同意があったとき。

（任意退会）

第 12 条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。 但し、理事会が別に定める倫理に関する規則に基づく不正行為の調査手続に付された会員は、その手続が終了するまでの間、退会することができない。

（除名）

第 13 条 会員が次の各号の一に該当する場合には、社員総会において、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の 3 分の 2 以上の決議に基づき、除名することができる。この場合、その会員に対し、社員総会の 1 週間前までに、理由を付して除名する旨の通知をなし、社員総会において、決議の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

2 前項により除名が決議されたときは、その会員に対し、通知するものとする。

（会員資格喪失に伴う権利及び義務）

第 14 条 会員が第 10 条の規定によりその資格を喪失したときは、この法人に対する会員としての権利を失い、義務を免れる。但し、未履行の義務は、これを免れることができない。

2 この法人は、会員がその資格を喪失しても、既納の会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。

公益社団法人日本地球惑星科学連合
2019 年度第 6 回理事会議事録（抜粋）

1. 開催日時 2020 年 3 月 24 日(火) 15:00～17:00
2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 105 号室

第 6 号議案 定款第 12 条改訂の件

定款第 12 条に「但し、理事会が別に定める倫理に関する規則に基づく不正行為の調査手続に付された会員は、その手続が終了するまでの間、退会することができない。」と追加することを総会に提出することを審議した。これを承認した。

第2号議案 役員（理事、監事）選任の件

(1) 役員候補者推薦委員会名簿

氏名	所属	備考
川幡 穂高	東京大学	連合会長
榎並 正樹	名古屋大学	学協会長会議議長
倉本 圭	北海道大学	セクションプレジデント(宇宙惑星科学)
谷口 真人	総合地球環境学研究所	セクションプレジデント(大気水圏科学)
鈴木 康弘	名古屋大学	セクションプレジデント(地球人間圏科学)
田中 聡	海洋研究開発機構	セクションプレジデント(固体地球科学)
遠藤 一佳	東京大学	セクションプレジデント(地球生命科学)

(2) 理事候補者選挙実施日程

2019年 12月12日 理事候補者選挙公示

12月19日 候補者受付開始

2020年 1月9日 候補者受付締切

1月29日 投票受付開始

2月10日 投票受付締切（有効票：126票）

2月21日 選挙管理委員会による開票、役員候補者推薦委員会へ結果報告

3月9日 役員候補者推薦委員会会議

3月13日～ 3月19日 役員候補者推薦委員会メール会議

1. 開催日時：2020 年 3 月 9 日（月）15：00～16：00
2. 開催場所：連合事務局会議室（〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル）
3. 出席委員：会長 川幡 穂高 （東京大学）
学協会長会議議長 榎並 正樹 （名古屋大学）
次期セクションプレジデント
宇宙惑星科学 倉本 圭 （北海道大学）
地球人間圏科学 鈴木 康弘 （名古屋大学）
固体地球科学 田中 聡 （海洋研究開発機構）
(敬称略)

4. 議事

開始予定時刻となったため、議長が議長席に着き、会議の開始を宣言した。以下議事に入った。

議事 1. 関連規則の確認

定款、役員候補者推薦委員会規則、理事候補者選挙規則および理事候補者実施細則等、関連規則を確認した。

役員候補者推薦委員会規則第 4 条 2 では、「推薦委員会の決議には、全委員が出席し、その過半数の賛成を持って行う。」とある。谷口委員と遠藤委員は当日の会議にやむにやまれぬ事情のため急遽出席できなかったため、後日メールにて審議内容を伝え、あらためてメール会議にて全員の承認を得ることとした。

議事 2. 理事候補の選出

管理委員会より提出された理事候補者選挙の選挙結果を元に、理事候補者を選出した。候補者は全て問題がないことを確認した。

基本的には得票数の上位から 20 名までを推薦する。ただし、投票後に退会届を提出した候補者があり、慰留中であるとの報告があった。事実関係を確認し、事実であれば次点の候補者を繰り上げて 20 名とすることとした。

また同様に、他にももし辞退等があった場合は次々点の候補者を繰り上げるということとした。

いずれの場合も、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」第五条十一および定款第 16 条に定められた、他の同一の団体の理事又は使用人である者についての検討し、問題ないことを確認した。

議事 3. 監事候補の選出

継続性を考え、現職の鈴木善和監事、加藤照之監事には引き続き依頼する。

新任の方を迎えた方が良いという意見があり、過去の役員経験者、セクションプレジデント経験者等から学識・経験を踏まえ春山成子氏に打診することとした。但しもし固辞された場合は氷見山幸夫監事

に継続していただくこととした。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(16 時 00 分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成した。

以上

参考：

理事候補者選挙実施細則

(順位の決定)

第 6 条 選挙の結果、得票の多い者から順位を付け、得票同数の場合は、年齢の若い者を上位とする。

公益社団法人日本地球惑星科学連合定款

(役員の選任) 第 16 条

2 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある者（公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行令第 5 条各号に掲げられた者をいう。）である理事の合計数は、理事の総数の 3 分の 1 を超えてはならない。監事についても、同様とする。

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律

(公益認定の基準)

第五条十一 他の同一の団体（公益法人又はこれに準ずるものとして政令で定めるものを除く。）の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にあるものとして政令で定める者である理事の合計数が理事の総数の三分の一を超えないものであること。監事についても、同様とする。

1. 開催日時：2020 年 3 月 13 日（金）～ 3 月 19 日（木）
2. 開催方法：メール会議
3. 出席委員：会長 川幡 穂高 （東京大学）
学協会長会議議長 榎並 正樹 （名古屋大学）
次期セクションプレジデント
宇宙惑星科学 倉本 圭 （北海道大学）
大気水圏科学 谷口 真人 （総合地球環境学研究所）
地球人間圏科学 鈴木 康弘 （名古屋大学）
固体地球科学 田中 聡 （海洋研究開発機構）
地球生命科学 遠藤 一佳 （東京大学）
(敬称略)

4. 議事

議長よりメール会議の開始と議事内容を伝えるメールが役員候補者推薦委員会メーリングリストに送信された。

議事 1. 理事候補の選出

前回会議での報告のあった得票上位者の辞退が確認されたため、得票 21 位の候補者を繰り上げて 20 名とする推薦リストが提示された。全員から了承の返答がメールにて事務局に送信されたため、全会一致で可決した。

議事 2. 監事候補の選出

春山成子氏の快諾を得たため、現職の鈴木善和監事、加藤照之監事とあわせて 3 名のリストを提示した。全員から了承の返答がメールにて事務局に送信されたため、全会一致で可決した。

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成した。

以上

2020年度理事候補者選挙投票結果

氏名	所属	得票数
田近 英一	(東京大学)	89票
川幡 穂高	(東京大学)	87票
ウォリス サイモン	(東京大学)	82票
中村 昭子	(神戸大学)	77票
道林 克禎	(名古屋大学)	69票
高橋 幸弘	(北海道大学)	67票
阿部 なつ江	(海洋研究開発機構)	66票
日比谷 紀之	(東京大学)	66票
中村 正人	(宇宙航空研究開発機構)	65票
浜野 洋三	(神戸大学)	65票
小口 千明	(総合研究大学院大学)	64票
橘 省吾	(東京大学)	63票
木村 学	(東京海洋大学)	63票
村山 泰啓	(情報通信研究機構)	62票
西 弘嗣	(東北大学)	58票
成瀬 元	(京都大学)	56票
河宮 未知生	(海洋研究開発機構)	55票
掛川 武	(東北大学)	52票
沖 大幹	(東京大学)	46票
奥村 晃史	(広島大学)	41票
吉田 尚弘	(東京工業大学)	37票
市川 洋	(なし)	35票
松多 信尚	(岡山大学)	27票
山野 博哉	(国立環境研究所)	27票

理事候補者推薦一覧

阿部 なつ江	海洋研究開発機構	変動する地球環境に対応するには、地球惑星科学分野の研究発展は不可欠で、さらにその魅力や大切さを社会に伝える必要があります。そのために、私は理事活動を通じて、人材育成や学会の多様性拡大に努めます。
ウォリス サイモン	東京大学	JpGUの国際活動に貢献したいと思います。また、年大会の海外からの参加をさらに促したいです。これはJpGUの発展のみならず、国内外の地球惑星科学分野の発展・促進のために重要であると考えます。
沖 大幹	東京大学	沖氏はグローバルな水循環・水資源に関する研究で世界をリードしており、AGUとの連携深化や、若手研究者のエンカレッジに対して重要な貢献を果たすものと期待されることから、次期の理事に推薦する。推薦者1：寶 馨 推薦者2：檜山 哲哉
小口 千明	埼玉大学	地球科学分野の研究者の育成と支援に関わってきました。最近はとくに欧米からの良い意味での圧力を感じます。国際的・分野横断的な連携を深め、引き続き、任期付雇用や無意識の偏見等について考えてまいります。
奥村 晃史	広島大学	地球惑星科学の緊急の課題である自然災害の解明と被害軽減、地球環境変動の理解と影響緩和に関わる研究と情報発信を、世界の研究コミュニティと協調して強力に推進するJpGUの発展のため力を尽くします。
掛川 武	東北大学	代議員や財務委員の経験でJpGUの抱える課題と次世代への引き継ぎに関して考えさせられてきました。理事の役目と責任は重要かと思います。
川幡 徳高	東京大学	AGU共同開催も含めた国際的な年会の充実、一流ジャーナルPEPSの確立、さらにGeoethicsも推進し、日本の地球惑星科学の世界への情報発信を促進し、新パラダイムに到達すべく努力したいと思います。
河宮 未知生	海洋研究開発機構	連合の掲げる分野間連携の理念に共鳴しています。PEPSセクション編集長、財務委員、情報システム委員ほか、連合の様々な活動に関わっており、今後も連合のプレゼンス向上と国際化に貢献します。
木村 学	東京海洋大学	これまでの経験を生かし、新しい時代の連合へシームレスに発展するよう、世代の交代を意識した運営の一翼を担いたいと思います。
高橋 幸弘	北海道大学	世界的に進む、地球惑星科学の学術的な領域拡大やオープンデータ化、途上国を含む国際化に対応し、JpGUがアジアと世界における学術研究のリーディングコミュニティとしての地位を確立するために尽力します。
田近 英一	東京大学	地球惑星科学の今後の発展のために、若い学生や周辺分野の研究者を惹きつける努力や国際的に開かれた環境構築、学術会議地球惑星科学委員会との戦略的連携などをより一層推進したいと思います。
橘 省吾	東京大学	これまで広報普及面で活動してきました。引き続き、地球惑星科学の普及、JpGU内での情報共有で貢献できればと考えております。
中村 昭子	神戸大学	顕彰委員会の担当を2期務めています。顕彰委員の任期は最大3期までです。そこで、次の担当の方々と一緒に現状の課題をよりよい方向に整理するべく尽力したいと考えています。
成瀬 元	京都大学	これまで、顕彰制度の確立などを通じて連合の活動に協力してきました。今後は、地球表層プロセスの学際的な研究が促進されるようさらに尽力したいと思います。
西 弘嗣	東北大学	2年間、総務として連合の規約制定や事務サポートに尽くしました。今後も地球惑星連合の持続的な発展のため全力を尽くします。

浜野 洋三	神戸大学	JpGU2019年大会ユニオンセッションU08で提案された貴重な意見と提言（JGL vol.15, No.4, 2019参照）を取り入れ、さらに多くの参加者に満足頂けるJpGU大会の実現をめざします
日比谷 紀之	東京大学	これまでの総務／グローバル戦略担当理事としての実務経験を活かすことで、JpGUの真の国際化に尽力するとともに、次世代を担う若手研究者にとってJpGUが益々魅力的な情報交換／発信の場となるよう努めます。
道林 克禎	名古屋大学	日本地球惑星科学連合の発展のためにJpGU Meetingをより一層充実させられるように努める他、広報普及活動にも取り組んでいきます。
村山 泰啓	情報通信研究機構	JpGU情報担当理事、日本学術会議連携会員(国際サイエンスデータ分科会委員長)・AGU地球宇宙情報学セッション執行委員会等他組織の役割も生かしオープンサイエンス検討やコミュニティ発展へ貢献します。
吉田 尚弘	東京工業大学	AGUフェロー、GRLとACPの元Editor、UNEP科学委員、学振国際事業部委員、元地球化学会会長、WPI地球生命研究所PIの経験を活かし、学生指導の両面を理解した上で、本連合の科学の発展、国際化、若手育成に貢献したい。

50音順

監事候補者推薦一覧

加藤 照之	神奈川県温泉地学研究所
鈴木 善和	プラタナス法律事務所
春山 成子	三重大学名誉教授

50音順